

# サーキュラー・ トランジション・ インデックス CTI V2.0

直線型から循環型ビジネスモデルへ  
～循環性の計測方法～









序文 | 7

エグゼクティブ・サマリー | 8

第1部 サーキュラー・トランジション・インデックス:CTIフレームワーク | 9

サーキュラー・トランジション・インデックス: CTI | 10

サーキュラリティ測定基準の必要性 | 11

CTIの利用 | 12

バリューチェーンの取り組み | 14

CTI方法論 | 15

各指標 | 16

技術的資源循環サイクルと生物的資源循環サイクル | 22

CTIプロセスのサイクル | 24

CTIを始めるには | 25

第2部 サーキュラー・トランジション・インデックス:

CTIユーザーマニュアル V2.0 | 26

- ① **適用範囲** 領域の決定 | 27
- ② **選択** 指標の選択 | 28
- ③ **収集** 情報源の特定とデータ収集 | 29
- ④ **測定** 測定の実行 | 31
- ⑤ **分析** 結果の解釈 | 50
- ⑥ **優先順位付け** 機会の特定 | 58
- ⑦ **適用** 計画と行動 | 66

CTI用語集 | 69

CTIの開発および導入にご協力いただいた企業、団体の皆様に深く感謝申し上げます。



アドバイザーグループ:



サーキュラー・トランジション・インデックスのフレームワークは、WBCSDのサーキュラーエコノミープログラムの旗艦プロジェクトであるFactor10の一環として、循環指標ワーキンググループにより策定されました。

サーキュラー・トランジション・インデックスは、KPMGと共同で開発されました。



サーキュラー・トランジション・インデックス CTI V2.0日本語版は、PwC Japanグループの協力により作成されました。





より循環性の高い経済に向けてビジネスをさらに進化させるために、WBCSDと引き続き連携できることを大変喜ばしく思います。サーキュラー・トランジション・インデックス・プロジェクトの参加者として、私たちは資源の利用とリユースを正確に自己評価するためのツールの発見を後押ししてきました。そして、私たちは目標の優先順位付けと設定を通じて、サーキュラリティ(循環性)の分野における自社の進捗状況を監視できるようになりました。

**Stephan B. Tanda**  
社長兼CEO, Aptar



CHEPは、シェア&リユースという当社のビジネスモデルが本質的に循環型であると考えています。課題はそれをどう測定するかです。私たちは当初、会社全体でサーキュラリティのパフォーマンスKPIを発見するという目的でサーキュラー・トランジション・インデックス(CTI)ツールを進んで取り入れました。そして、CTIが実際にそれだけにとどまらない大変素晴らしいツールであることをすぐに実感すると同時に、マテリアルフロー分析に対するそのアプローチが、他のサーキュラリティ測定システムを補完することが分かりました。さらに、極めて詳細なレベルでリスクを速やかに特定し、当社のサーキュラリティを改善するためのアクションの優先順位を付けられるようになりました。

**Juan Jose Freijo**  
Vice President, CHP



持続可能なモビリティの実現に向けてMercedes-Benzのやり方を変革する。それは、電気自動車の開発を主導すると同時に、企業として、また製品と生産に関しても責任を負うことを意味します。私たちが、カーボンニュートラルなモビリティという目標に近づくために、バリューチェーンからバリューサイクルへの転換を進める理由はそこにあります。当社はCTIのフレームワークを企業構造に取り入れることによって、標準化された、包括的な方法でプロセスのサーキュラリティを測定し、改善することができます。それは、サーキュラーエコノミーへの変革加速に適した手段を推進するためです。

**Markus Schäfer**  
Member of the Board of Management, Daimler AG and Mercedes-Benz AG



より高度なサーキュラーエコノミーへの移行の実現において、Dowの素材が重要な役割を担うと私たちは信じています。私たちはまだこの移行のごく初期段階にありますが、進捗状況の測定を助ける物差しを定めることが重要です。CTIのフレームワークは、企業が基準線を定め、焦点を当てるべき分野の優先順位付けを行う際に役立ちます。私たちはWBCSDと密に協力しつつ、Dowと同業他社がサーキュラリティを念頭に置きながら経営判断を下す際の参考とするために、このフレームワークをテストし、進化させます。

**Mary Draves**  
Chief Sustainability Officer and VP EH&S and Sustainability, Dow



調査結果は明らかです。「資源採取・生産・廃棄型」経済に基づく未来にまったく発展の余地はありません。CTIガイドラインを採用し、サーキュラリティ(循環性)を基本とする企業は、積極的に人々および地球にとってより持続可能な将来を創出するため、普通とは異なる手段を取りつつあります。

**Andreas Fibig**  
会長兼CEO, IFF



KPMGは、CTIフレームワークv2.0の開発に引き続き参加できることを誇りに思います。導入パートナーである私たちには、サーキュラリティパフォーマンスの評価、リスクと機会の特定、レジリエントで将来性のある事業遂行への舵取りにあたって、このフレームワークがクライアントにもたらす付加価値が見えています。

**Richard Threlfall**  
Global Head of KPMG IMPACT, Partner, and Global Head of Infrastructure, KPMG



サーキュラーエコノミーは、単なるリサイクルを意味しません。それは、限りある資源から成長を切り離すことによって、価値創出システム全体を変革することを意味します。LANXESSはこのような変革を支持します。長いバリューチェーンの中間点にいる私たちは、代替原料の開発に努めるだけでなく、当社製品のためのさまざまなリサイクル技術の研究も進めています。例えば、当社のエンジニアリング材料は、機械的再生手段や多数のケミカルリサイクル手段に適しています。

**Anno Borkowsky**  
Board member responsible for value-chain circularity, LANXESS





私はサーキュラーエコノミーの正しさを信じています。5,000万トンの廃棄物を製品と工程でリサイクルするLafargeHolcimは、この分野において世界のリーダー的存在です。2030年までにこの数字を2倍にし、当社の事業全体で1億トンのリサイクルするという目標を立てました。コンクリートは無限にリサイクルできます。ですから、建築・解体廃棄物のリサイクルには大きなビジネスチャンスがあると私は考えます。私たちはWBCSDのサーキュラー・トランジション・インデックス (CTI) を使って素材のループを閉じ、グリーンな製品とソリューションからの収入を測定しています。CTIのフレームワークを使い、継続的なレベルアップに向けて、よりグリーンな都市の建設に私たちがどれだけ貢献しているかを積極的に測定します。

**Jan Jenisch**

CEO, LafargeHolcim



持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD) が開発したサーキュラー・トランジション・インデックス (CTI) のフレームワークは、循環型企業経営を、測定可能で理解しやすく、また管理しやすくするためのグローバルな普遍的定義と測定方法を提供します。このフレームワークは、私たちに正しい目標へと導き、廃棄物レポートからインフロー・レポートとアウトフロー・レポートへの転換を促します。例えば、現時点で私たちはこのフレームワークを使って当社の鉄道のサーキュラリティレベルを測定するとともに、目標達成に向けて、調達時の意思決定の参考にしています。私たちの目標とは、2030年に鉄道を100%循環型にすることです。

**Marjan Rintel**

Chair of the Board, NS



標準化された方法でサーキュラリティを測定する取り組みについて合意することは、グローバル企業全体でサーキュラーエコノミーに基づく手法を大規模に導入するために欠かせません。バリューチェーン全体で、素材と製品の寿命を通じて最大の価値を維持するためにサーキュラリティが測定され、自信を持ってループが閉じられていく様子を知ることが励みになります。私たちは、投資プロセスにおいて循環型の意思決定を進めるために、財務指標をこの枠組みに含めることを全面的に支持します。

**Frans van Houten**

CEO, Philips



北西ヨーロッパで資源の重要なハブとして機能するロッテルダム港は、CTIのフレームワークを使って、港における生産とスループットのサーキュラリティ (循環性) を評価しています。この方法を取り入れた結果、将来的な改善の基準ができました。港と産業クラスターのサーキュラリティを改善できる可能性が非常に大きいことがスキャンによって明らかになりました。

サーキュラーエコノミーは、私たちの戦略の構成要素としてますます重要性を増しています。私たちはサプライチェーンのサーキュラリティを高めるべく、パートナーと積極的に協力しています。

**Allard Castelein**

CEO, Port of Rotterdam



持続可能な社会に向けて、モノの生産・廃棄に伴う温室効果ガス排出、生態系破壊、人権侵害等をなくしていくことが強く求められています。そのためには、サーキュラーエコノミーへの移行が不可欠です。そして、サーキュラーエコノミーへの移行は、経済価値と環境・社会の価値を同時に高めるトレードオンビジネスを生み出します。この変化を促進するには、各企業が現状と取り組むべき方向を理解することが欠かせません。そのために、サーキュラーエコノミーの現状可視化、進むべき方向性検討のツールであるCTI2.0は、大きな役割を担えるでしょう。PwC Japanグループも積極的にこの変化を後押ししていきます。

**磯貝 友紀**

PwC Japanグループ サステナビリティ・センター・オブ・エクセレンス テクニカル・リード



サーキュラーエコノミーへの移行をさらに一歩進めるためには、測定と方向付けが重要です。私たちは、サーキュラーエコノミーの先駆者にならんとするクライアントとともに、当行のネットワークを通じた支援と協力で熱意を持って取り組み、知識と金融ソリューションを共有しています。当行での試験的導入において、私たちはCTIがクライアントの意思決定を実際に改善できることを体感しました。CTIは、リスクとリターンのバランス改善に関する知見を、企業とその金融パートナーに提供します。私たちは、ビジネスと、当行が提供する金融ソリューションにCTIを積極的に取り入れます。

**Alain Cracau**

Head Sustainable Development, Rabobank



Security Matters (SMX) は、WBCSDのリーダー的役割と、サーキュラー・トランジション・インデックス (CTI) の枠組みの重要性を認識し、支持しています。CTIは、SMXのデジタルツイン・テクノロジーとブロックチェーン・プラットフォーム・ソリューションを補完し、企業が信頼性の高い、目に見える、測定可能な方法で、真のサーキュラーエコノミーへと円滑に移行することを可能にするからです。真のサーキュラーエコノミーでは、あらゆる素材が残らず活用され、何一つ廃棄物になりません。

**Haggai Alon**

CEO, Security Matters Ltd



サーキュラーエコノミーへの移行は、直線型経済に特有の廃棄物を単に削減するという以上のものです。それは経済的機会、環境および社会面での利益を創出し、企業のレジリエンスを増大する持続可能な成長を意味します。この移行には、あらゆる企業の協力を軸としたバリューチェーン全体にわたる資源ループを閉じ、最適化し、評価する体系的な変化が必要となります。

**Alistair Field**

CEO, Sims



# 序文

2020年がこのような姿になると予想できた人はまずいないでしょう。確かに異常事態が続いていますが、皆さんが一步後退すれば、それは、より大きな不安定さと不確かさのパターンの形成につながります。私たちが行う材料資源の直線型消費がもたらす影響で、世界は互いに絡み合う、複雑で重要な一連の環境問題に直面しています。

全世界を襲うパンデミックは、多くの人々、地域社会、そして企業に、永久に消えることのない傷跡を残すでしょう。しかし、それが一方で、集団思考をリセットし、新たな方向に軸足を置き、より良い復興を図る、一世代に一度あるかないかの機会を私たちにもたらすことも確かです。2020年中は集団的なパンデミック対応を通じて、不可能を可能にできることを私たちはこの目で見てきました。今こそこの機運を加速すべき時です。

サーキュラーエコノミーは、より良い、より持続可能な世界への道筋を切り開きます。サーキュラリティ（循環性）を受け入れる企業は、自社商品の将来性を保証されます。また、人と地球のためになる行動を取ることによって、健全な財務体質を維持することができます。

私たちの資源利用が、資源を再生し、再び提供する地球の力を傷つけることなく社会のニーズを満たす世界を目指して、私たちは一丸となり、努力しなければなりません。

この課題の大きさを過小評価すべきではありません。現在のところ、世界経済の循環率はわずか8.6%です。

このギャップを埋めるためには、新しいアプローチ、多様な視点、専用のツールが必要になるでしょう。サーキュラー・トランジション・インデックスは、企業と社会全体にとって大きな前進です。

サーキュラー・トランジション・インデックスによって、企業はサーキュラリティ（循環性）についての明確な共通言語を持てるようになりました。サーキュラー・トランジション・インデックスは、企業が自社のサーキュラリティに関するパフォーマンスを一貫性をもって測定し、付随する直線型リスクと循環型機会を理解するための一連の定量的指標です。

企業が企業のために構築したこのフレームワーク自体はシンプルかつ包括的であり、企業がすでに行っている持続可能性のための取り組みを補完するものです。

さらに、サーキュラー・トランジション・インデックスは、サーキュラリティを追求する組織の取り組みの測定と追跡の一貫性をさらに高め、社内の方向付けと意思決定のための有意義な情報を提供します。

DSMが再生可能なバイオ由来資源と再生資源への移行を継続的に推進する過程で、このフレームワークを採用したことは、組織のパフォーマンスの向上とサーキュラリティに関する具体的なギャップの理解に役立っています。

最終的に、このフレームワークは組織のレジリエンスの強化につながるでしょう。

今後、私たちは（あらゆる業種、地域、レベルにおいて）より多くの組織が、サーキュラー・トランジション・インデックスを使用することによってサーキュラリティ向上の道程を加速させるよう働きかける必要があります。

サーキュラーエコノミーへの移行に関しては、世界がこれに依存していると言っても過言ではないでしょう。



**Helen Mets**  
Executive-Vice President  
Materials, DSM



# エグゼクティブ・サマリー

サーキュラーエコノミーへの機運が高まる中、サーキュラーパフォーマンスと付随するリスク・機会についての知見をもとに移行の準備を行うことが企業にとって不可欠となっています。これを実行するためには、企業はサーキュラリティを測定する普遍的かつ一貫した方法を必要とします。

サーキュラリティ・ギャップ・レポートによれば、現在のところ、世界経済の循環率は8.6%にとどまっています<sup>1</sup>。WBCSDの加盟企業30社が考案したサーキュラー・トランジション・インデックス(CTI)は次のような疑問に答えます。

- 私の会社はどのぐらいサーキュラリティがあるのか？
- 改善目標はどのように設定するのか？
- サーキュラー活動による改善をどのようにモニターするのか？

CTIはシンプルで、業界全体、バリューチェーン全体に適用できます。包括的でありながら柔軟性があり、各企業の既存の持続可能性への取り組みを補完し、素材や部門、技術を選びません。

CTIの柱は、企業のサーキュラーパフォーマンスを決定する自己評価です。CTIは、第一に企業全体の循環型物質フローと直線型物質フローに焦点を絞ります。そこで、その企業がどれだけの成果を上げているかを判断するための極めて重要な要素となるのは、設計・調達・資源循環の各モデルです。CTIは、ループ化の能力だけでなく、全体的な資源利用の最適化について、さらにはその企業の循環型マテリアルフローと業績の関係についての知見も提供します。

このフレームワークは、その企業の循環型活動が環境や社会に与える影響を評価するわけではありませんが、物質フローを理解することは、それらの影響を知るための重要な一段階です。

サーキュラリティパフォーマンスに関して共通の指標を使用することは、サーキュラーエコノミーへの移行を加速するために欠かせませんが、企業にとってCTIは、サーキュラリティが企業業績をいかに押し上げるかに関するガイダンスや分析、説明のための計算よりはるかに大きな価値を持ちます。CTIプロセスは企業が評価の範囲を定め、評価の準備を行い、結果を解釈し、リスクと機会を理解し、アクションの優先順位を決定し、進捗状況を監視するためのSMART目標を設定する上で役立ちます。

CTIの対象は社内です。また、CTIは客観的で定量的であり、実証可能なデータに基づきます。こうしたデータは社内にあってもなおざりにされていたり、または社外の、バリューチェーンパートナーのところにあったりします。このプロセスを通じて企業をサポートし、指針を示すために、私たちはCircular IQと提携してCTIオンラインツールを開発しました。このツールは[www.ctitool.com](http://www.ctitool.com)でご利用いただけます。CTIはこのツールを介してバリューチェーンに関する議論を促します。これらの議論は、サーキュラーエコノミーへの移行を加速させる上で欠かせません。

顧客、投資家、規制によるサーキュラーパフォーマンスを実証することへの圧力が高まる中、信頼できる対応を行うことが各社にとっての最大の利益です。CTIは、こうした対応を準備するためのフレームワークを提供します。

## 注記

- 新しいコンテンツ
- 例
- 補足情報

このフレームワークは点数をつけるものではありません。結果が自社の最終目標に沿っているかどうかの判断は企業に委ねられます。サーキュラリティへの移行の運転席に座るのは企業自身です。

このCTIアップデート版は2021年2月に公表されました。これを機会に自社のサーキュラリティのベースラインを測定してサーキュラーエコノミーへのコミットメントを実証することを、規模や業種を問わず全世界の企業にお勧めします。

## CTI VERSION 2.0: 更新内容

CTI v2.0では、これまでの測定方法に次の3つの大きな項目が追加されました。

### 水のサーキュラリティ:

CTI v1.0で予告したように、新バージョンでは、水のサーキュラーインフロー／アウトフローとオンサイト水循環に関する算定が導入されました。

### CTI収益指標:

サーキュラリティと業績を結び付けた測定基準に対する投資家の関心が強まっていることを受け、新たに導入されたCTI収益指標は、投資家の質問に確実に答えるための一貫性をもった手法を提供します。

### バイオエコノミー・ガイダンス:

全てのインデックスとプロセス段階でバイオエコノミーに関する幅広い指示と解釈がCTIに取り入れられました。

すでにCTI v1.0での評価を終えている場合、新しいコンテンツが御社のパフォーマンスに影響することはありません。これらの変更は、CTIの利便性と有益性を高めることのみを目的としています。



## 第1部

# サーキュラー・トランジション・インデックス： CTIフレームワーク



# サーキュラー・トランジション・インデックス:CTI

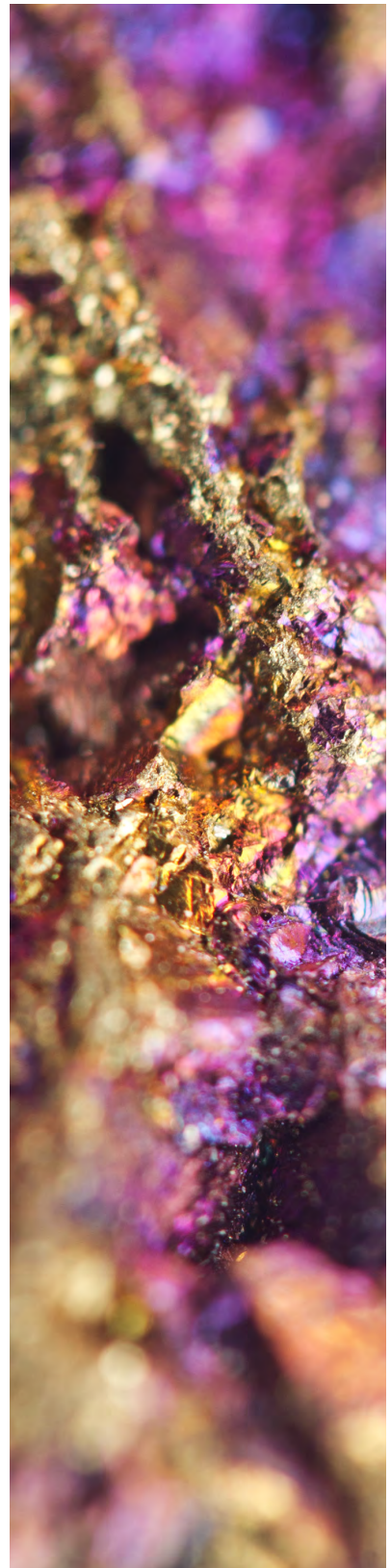
現在、世界の循環率は8.6%にとどまっています<sup>2</sup>。このような状況が持続不可能であることは明白です。と同時に、採る・使う・捨てるの経済モデルからの脱却が喫緊の課題となっています。このような浪費傾向が続くとすれば、私たちが2030年までに必要とする天然資源は地球2個分に達し、持続可能な開発目標(SDGs)とパリ協定の実現は事実上不可能になるでしょう。<sup>3</sup>

廃棄物とみなされるものでも、それが存在する限り、そこには資源として利用する価値、機会、ビジネスケースがあると考えます。直線型から循環性の高い事業運営へのシフトが強く求められる中で、改善の余地が91%以上残されていることは朗報です。

移行への機運は高まっており、官民両部門において野心的な循環型目標の設定を始めています。例えば、欧州委員会は移行加速を後押ししています。オランダは政府機関全体で2030年までに一次原材料の使用を50%削減し、2050年までに完全なサーキュラーエコノミーに移行する計画を導入しました。さまざまな業界と公的機関が戦略を立案し、進捗状況を測定するための共通言語を打ち立てるには透明性と調整が不可欠です。

こうした理由から、WBCSDのFactor10プロジェクトを通じて30のグローバル企業がサーキュラー・トランジション・インデックス(CTI)の策定に力を合わせました。その目的は、客観的、定量的、柔軟なフレームワークを策定し、リスクと機会を特定し、サーキュラーな優先事項を決定し、目標を設定することです。私たちはこのフレームワークが、すでに業界で使用されている既存の持続可能性フレームワークに取って代わるものとなることは意図していません。むしろ、サーキュラリティパフォーマンスへの知見を付加することに努めています。

CTIフレームワークは企業の管理範囲内でのマテリアルフローの評価を基本として、資源の効率性と効果性に関する追加的指標および循環型ビジネスによる付加価値を組み合わせています。こうした見方を通じて、最も効果的にサーキュラーエコノミーおよび関連の機会へ移行する方法について、企業が具体的な知見を得ることができるよう、このフレームワークがご案内します。





# サーキュラリティ測定基準の必要性

直線型ビジネスモデルは短期的には高収益を上げるかもしれませんが、長期的には市場リスク、経営リスク、法的リスク、ビジネスリスクに企業をさらすこととなります。サーキュラリティを支えるビジネススペースの核心は、企業が資源をよりスマートに利用することによって、より大きな価値を創出する機会です。企業は循環型ビジネスモデルを通じて成長を加速させ、競争力を高め、リスクを緩和することができます。

## 移行

サーキュラーエコノミーはあらゆる業界で企業に機会を提供する経済モデルであるものの、サーキュラーエコノミーへの移行は決して単純なものではありません。企業はビジネスモデルを変更し、戦略を適応させ、労働者のスキルを進化させなければならない一方で、政府はサーキュラーエコノミーを可能とするよう政策を調整しなくてはなりません。

このため連携的な変革に向けた計画および、明確な目標の設定が困難になります。企業が自らのサーキュラリティにおける現在位置を理解し、明確な重要業績評価指標 (KPI) でモニターする目標を設定できるようになるには、企業戦略においてサーキュラリティを採用する際に自らの意思決定を導く指標体系が必要になります。

## 一つの共通アプローチ

サーキュラーエコノミーへの移行を単独で推進できる企業はありません。

サーキュラーエコノミーは、より幅広い業界全体、バリューチェーン全体、部門間の取り組みを必要とします。サーキュラーエコノミーへの移行を進めるためには、規模、業種、バリューチェーン内の位置にかかわらず、企業各社が同じ言語で語らなければなりません。サーキュラリティパフォーマンスの測定とモニタリングに対して共通のアプローチを持つことは必須です。これによりバリューチェーンはバリューサイクルとなり、共通のビジョンに向かって歩みを進めることができるようになるでしょう。

このイニシアチブは、[サーキュラー・メトリクス・ランドスケープ分析](#)としてスタートしました<sup>4</sup>。私たちはここで、サーキュラリティ測定基準のための現行プロトコルと基準を慎重に検討し、見直しました。分析とその後の協議の結果、エレン・マッカーサー財団の[マテリアル・サーキュラリティ指標](#)と[Circulytics](#)<sup>5</sup>、サークルエコノミーの[Circle Scan](#)と[サーキュラリティギャップ・レポート・イニシアチブ](#)<sup>6</sup>、あるいは、質的なサーキュラリティ自己評価を目的とするEcopreneur.euの[Circularity Check](#)など、いくつかのサーキュラリティ算出方法が特定されました。これらの測定方法の共通点はマテリアルフローです。これにより官民全体でサーキュラリティの共通言語が確立されました。

分析の結果、企業が現在用いている評価やツールを補完するようなフレームワークを持ち、会社全体、事業部門全体、あるいは製品 (グループ) 全体のサーキュラリティを測定するための、社内を対象とした量的アプローチとガイダンスがかねてから求められていたという結論ができました。CTIはマテリアルフローを土台として、水、再生可能エネルギー、事業価値を対象範囲に取り入れ、企業のサーキュラリティパフォーマンスを多角的な視点で評価します。

## サーキュラーエコノミーの定義

サーキュラーエコノミーは、再生を意図した経済モデルです。

その目標は、再生可能性、長寿命、最適な (再) 使用、リファビッシュ、再製造、リサイクル、生分解を可能にする画期的なビジネスモデルを備えたシステムの創出によって、循環する資源、製品、部品、素材の価値を維持することです。

この原則を採用することで、組織は廃棄物を生み出さないような設計、資源の生産性の増大、地球の境界内での資源利用の維持に向け協力することができます。

注: CTIは、エレン・マッカーサー財団が示すサーキュラーエコノミーの原則に準じています。それは次のような原則です。

- 廃棄物と汚染を排出しない設計
- 製品と素材を使用し続ける
- 自然のシステムを再生する。

# CTIの利用

CTIは、サーキュラーエコノミーパフォーマンスに関する知見を企業に提供します。これにより企業は次のことが可能になります。

- **自社の寿命を延ばし、レジリエンスを高めることを目的として、循環型機会と直線型リスクを特定する**
- サークュラリティへの移行に関する**基準を設定し、進捗状況を監視する**
- **顧客と外部ステークホルダー（投資家や市民社会団体など）に対応する**
- サークュラリティに関する共通の優先事項について、**バリューチェーン内での話し合いを開始する**
- サークュラリティに関する顧客の目標を同時に推進することによって**新規ビジネスを獲得する**

私たちは実施しやすく、範囲を柔軟に設定できるようにこのフレームワークを設計しました。このフレームワークは、企業が製品レベルから企業全体まであらゆるレベルでサーキュラリティを測定することを可能にします。従って、企業は自社のビジネスに最適なレベルでこの指標を利用することができます。私たちはCTIを使い、企業がサーキュラーエコノミーに関する自社の潜在能力を的確に理解できるようにすることにより、サーキュラリティへの移行を後押しすることを目指しています。

そのため、できる限り非規範的であるよう努めています。WBCSDは企業のCTI評価には関与しません。私たちは企業がサーキュラリティについての知見を得るための、社内を対象としたツールとしてCTIを開発しました。従って、CTIは、

- **持続可能性に関する全てのパフォーマンスを判断するわけではありません。**CTIは企業全体の循環型物質フローと直線型物質フローを測定し、資源利用の有効性を評価します。CTIはこれらの知見をもとに、より幅広い持続可能性への影響を対象とした、既存の一般に用いられる持続可能性のフレームワーク（温室効果ガス（GHG）排出、生物多様性、人的資源など）を補完します。サーキュラリティが唯一の目標というわけではありません。

この枠組みは企業の循環型活動が環境および社会に与える影響を評価するものではありません。しかし、物質フローを理解することは、企業の環境影響と緩和への道筋を知る上で大きな前進です。

- **産業間、企業間、製品間の比較を行いません。**各企業のサーキュラリティへの道程はそれぞれ異なります。そのため、関連性のある背景において、また入念に検討した上でのみ比較することが可能です。

- **持続可能性とは無関係なマーケティング資料およびプロモーション資料を対象としません。**サーキュラーエコノミーは、より持続可能な生産と消費の実現に向けた重要かつ必要不可欠な道筋ですが、サーキュラーエコノミーがその企業の持続可能性パフォーマンスに与える影響は、他の持続可能性指標が持つ、より大きな背景に左右されます。企業がフレームワークの結果を対外的に伝えることは、それが適切な背景で提示されるのではない限り、お勧めできません。

## 例: 共通の優先事項

アルミニウム産業が非常に効果的な再生インフラストラクチャを持っている背景にある主な推進要因の一つは、リニア消費率がその軌道を引き続き辿った場合、資源枯渇と競争力低下のリスクがあるという認識を、アルミニウムバリューチェーンの利害関係者が連帯してもったという点です。強力な再生インフラの開発へ向けたコミットメントと資源が結び付いてこそ、今日のアルミニウム缶の70%という資源循環率が実現しているのです。

2015年、独立の第三者認定プログラムを開発・運用し、バリューチェーン全体でアルミニウムに対してマテリアル・スチュワードシップ型アプローチを推進するための非営利機関として、アルミニウム・スチュワードシップ・イニシアチブ(ASI)が設立されました。

出所: [アルミニウム・スチュワードシップ・イニシアチブ](#)



私たちが適切な背景と考えるのは、以下の場合です。

- 当該企業が、十分な注意を払って評価の範囲を開示し、自社のサーキュラリティパフォーマンスに関する総合的見解を読者に示している。
- 「サーキュラー・トランジション・インデックスはフルスコープの持続可能性評価ではなく、フルスコープの持続可能性パフォーマンスに関して企業や産業を比較評価するためにその結果を使用すべきでない」旨を当該企業が明記している。
- 独立した第三者が結果を保証する場合。

### CTIオンラインツール

データはCTIの必須構成要素です。これにはすぐに利用可能なデータ、また企業の懐に隠されているデータ、あるいは企業の外部のサプライチェーンパートナーのところにあるデータも含まれます。このデータを取得し、算定を実行することが、このフレームワークの最も資源集約的な部分です。CTIのアクセシビリティとユーザビリティを最大限に高めるために、私たちはCircular IQと提携し、CTIオンラインツール：[www.ctitool.com](http://www.ctitool.com)を開発しました。

このツールはデータ収集を構造化し、インデックスごとに結果を算定します。

このツールは、社内のステークホルダーやバリューチェーンパートナーにデータを要求する際にユーザーをサポートし、機密保持の問題を防ぐための機能を備えています。

さらに、実施された範囲設定とステップを正確に文書化し、その後のサイクルにおける一貫性とモニタリングを可能にします。CTIオンラインツールは補助機能として働き、結果を体系的に保存します。さらに意思決定をサポートし、企業が進捗状況を追跡することを可能にします。ただし、最適な結果とスムーズなプロセスのために、まずこの文書に記載されている測定方法とユーザーマニュアルを一読することを企業の皆様にお勧めします。さらに、CTIの7つのステップの実施にあたっては、ツールを単独で完了しようとせず、社内のさまざまなエキスパートを関与させることを推奨します。

CTIツールはデータセキュリティと機密保持を保証します<sup>7</sup>。私たちはユーザーエクスペリエンスを高め、実行可能かつ有意義な結果が得られるように、ツールを継続的に改善しています。

### フレームワークの原則

#### 簡潔性

サーキュラーエコノミーの背景内において、可能な限り簡潔であること。

#### 一貫性

あらゆる業界で有効な一つの共通の言語を使用し、組織の規模、部門、バリューチェーン上のポジションに関係なく、サーキュラー機会およびリニアリスクに対する一貫した知見を提供します。

#### 完全性と柔軟性

多様なビジネスニーズに応える柔軟性をもった指標一式を提供します。

#### 補完性

サーキュラリティはより持続可能な生産と消費への一つの進路であることから、評価は単独で行うものではなく、既存のその他の持続可能性およびビジネス指標を常に補完するものでなくてはなりません。

#### 中立性

素材全てがサーキュラーエコノミーに貢献する限り、特定の素材を他より優先することを控えるようにします。

# バリューチェーンの取り組み

サーキュラーエコノミーには協力が必要です。バリューチェーン全体が資源の各ユニットに創出される価値の最大化のため一丸となって取り組む必要があります。

図1は簡略化したバリューチェーンを示しています。赤い矢印から遠いほど、企業は情報の取得が困難になります。

CTIはクロス・バリューチェーンの対話を引き起こす触媒です。これはバリューチェーンパートナーが団結して、共有された目標を追求するためのプロセスを提供します。

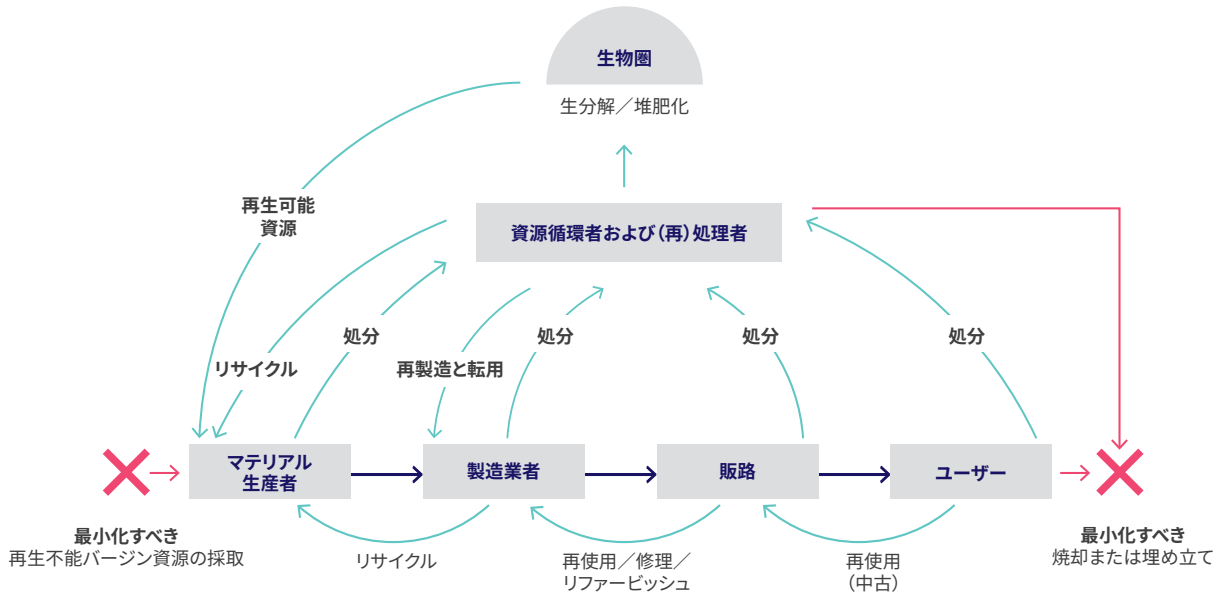
CTIオンラインツールは、プライバシーまたは機密保持の懸念を生じることなく、企業がバリューチェーンパートナーから必須データを取得するのに役立ちます。

**例: 共通の優先事項**

オランダの某テレコム企業は、「サーキュラリティ・マニフェスト」を介してサプライヤーとの協働を図り、上流のバリューチェーンパートナーが自社と同じ循環型の経営を行うよう徹底しています。

出所: [KPNサーキュラー・マニフェストおよびアペンディクス2017](#)

図1: バリューチェーン資源循環システムの簡略図





# CTI方法論

CTIは、その企業全体のマテリアルフローに基づいています。企業はこれらのフローを分析することによって、資源採取と廃棄素材の最少化に向けた自社の能力と最終目標を判断します。これは企業の境界の中で3つの主要な介入ポイントにおけるフローの評価を伴います。

## インフロー

調達した資源、素材、製品、部品のサーキュラリティ(循環性)はどの程度か。

## アウトフロー 資源循環可能性

その企業は、機能的に等価なコンポーネントと素材の技術的資源循環を保証するために、または生分解可能にするために、製品をどのように設計しているか(例えば、分

解、修理、リサイクルなどができるように設計する)。

## アウトフロー 実際の資源循環

その企業は実際にどの程度のアウトフローを資源循環しているか。

アウトフローには製品、副産物、廃水流が含まれます。企業は、クローズドループ・ビジネスモデル、または強制もしくは任意のオープンループ資源循環制度の取り組みを通じて実際の資源循環率を高めることができます。

この結果は、企業がいかに効果的にループを閉じているかを示します。

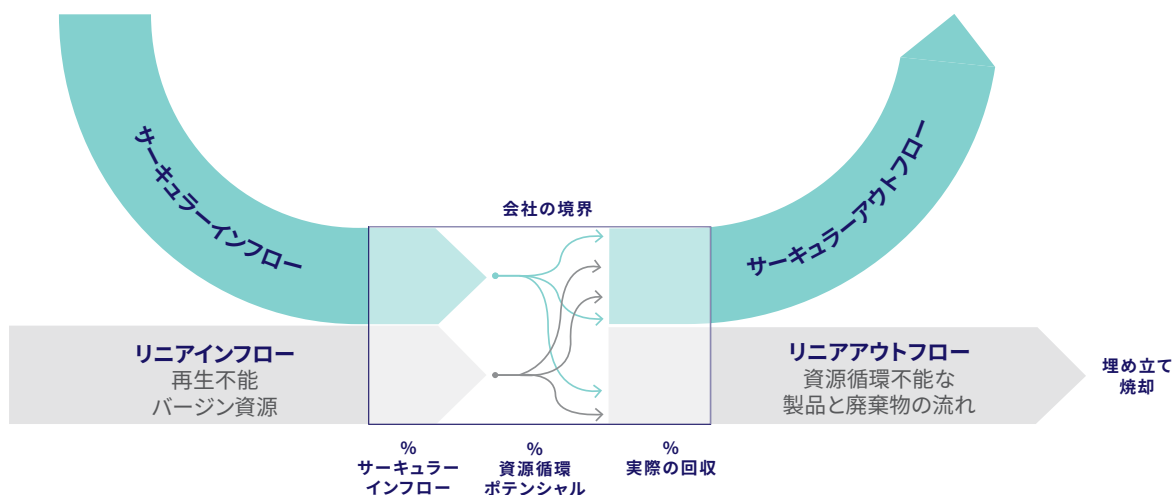
## マテリアルフロー

マテリアルフローには、栄養素、化合物、材料、部品、コンポーネントまたは製品も含まれます。読みやすくするため、この報告書ではこれら全てをマテリアルフローと呼びます。

## 資源循環

「資源循環」とは、再使用、修理、リファービッシュ、転用、再製造、リサイクル、生分解(堆肥化を含む)による、機能的に同等な栄養素、化合物、素材、部品、コンポーネント、さらに場合によっては製品(組織によって異なる)の、技術的に可能で採算の取れる資源循環を指します。

図2: マテリアルフローの図



# 各指標

規模、部門またはバリューチェーン上のポジションにかかわらず、どのような企業にもこの枠組みを使用することができます。従って、事業に適した指標の選び方はさまざまです。CTIでは指標一覧が示されますが、一部の指標は任意です。

評価は、「ループ化」のモジュールを全て終えるところから始まります。次に企業は、「ループ最適化」と「ループ評価」の指標を算定することによって、さらなる知見を得ることができます。

## 詳細について

各指標の詳しい具体的説明については、ユーザーマニュアルの28ページを参照してください。

### ループ化

%サーキュラーインフロー  
%サーキュラーアウトフロー  
%水のサーキュラリティ  
%再生可能エネルギー

### ループ最適化

%クリティカルマテリアル  
%資源循環タイプ  
オンサイト水循環

### ループ評価

サーキュラー型資源  
生産性  
CTI収益指標





# 1. ループ化

このモジュールは、企業のマテリアルフローのループ化の有効性を算定します。

これは会社、事業部門、施設または製品（グループ）のレベルで評価できます。

## ループ化におけるサーキュラリティパフォーマンス

ループ化における企業のサーキュラリティパフォーマンスは%サーキュラリティで表されます。下の式で示すように、これは%サーキュラーインフローと%サーキュラーアウトフローの加重平均です。%サーキュラーインフローは、非バージン原料含有率(%)と再生可能原料(持続可能な農法で栽培されたバイオベース原料)含有率(%)で決まります。%サーキュラーアウトフローの割合は、(設計に焦点を絞った)%資源循環可能性と実際の資源循環によって決まります。上記の三本柱はそれぞれ事業の異なる側面を取り扱っています。すなわち、インフローでは調達、資源循環可能性では設計、実際の資源循環ではビジネスモデル・イノベーション(クローズド)と法務分野およびパートナーシップ(オープン)を取り扱います。

新規の事項:生物学的サイクルに関するガイダンス

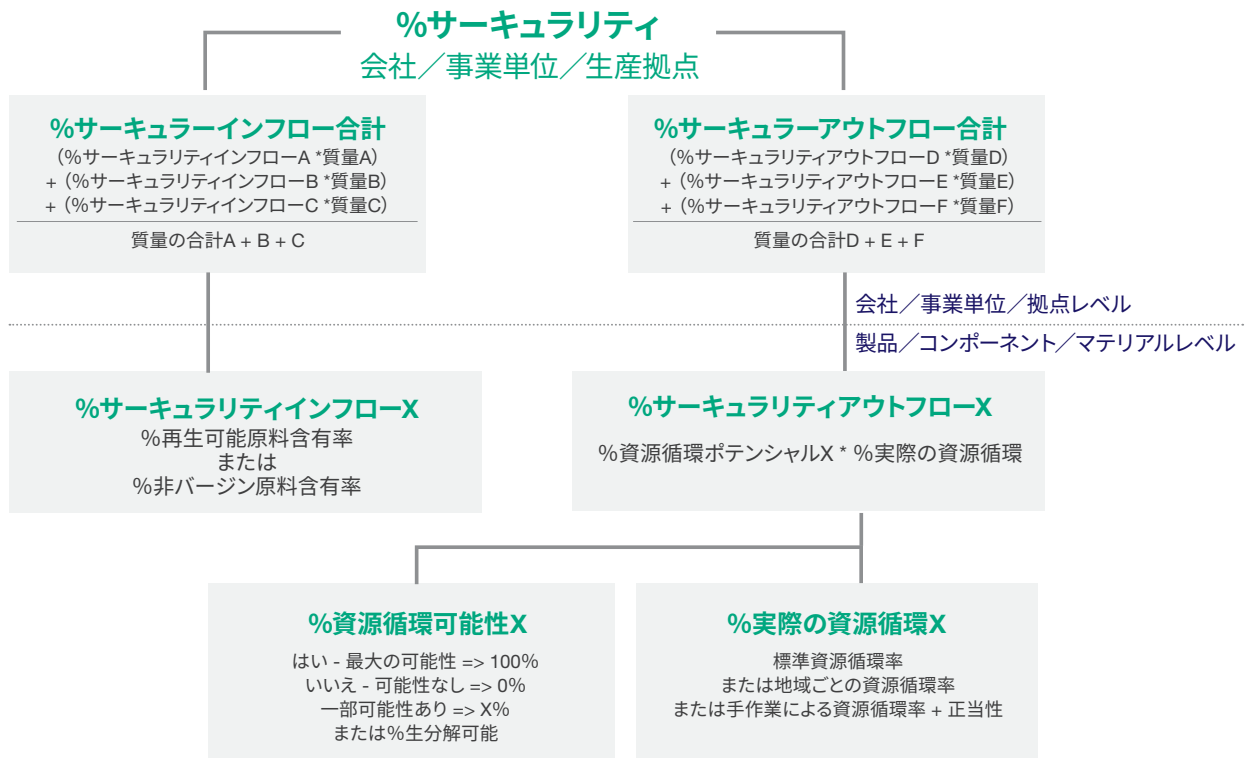
CTI v2.0ユーザーマニュアルでは、技術的サイクルと生物学的サイクルの両方に関し、素材の評価についての具体的指針が示されるようになりました。

### 個々の指標

「ループ化」モジュールでは以下の結果が得られます。

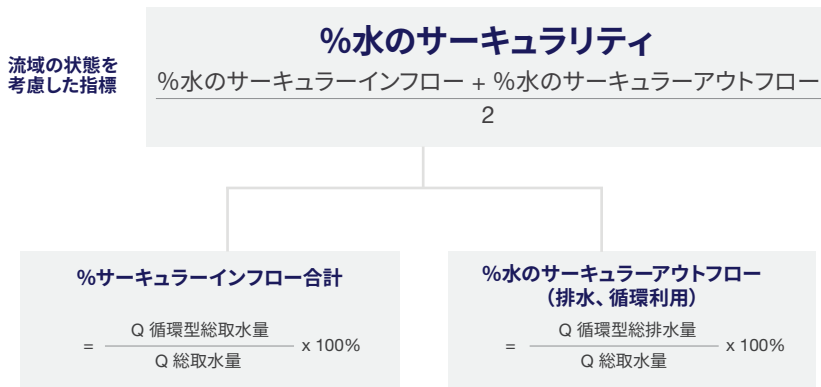
1. %サーキュラリティ(次の事項の加重平均で求められる)  
%サーキュラーインフロー  
%サーキュラーアウトフロー
2. %水のサーキュラリティ  
%水のサーキュラーインフロー  
%水のサーキュラーアウトフロー
3. %再生可能エネルギー

図3: %サーキュラリティ

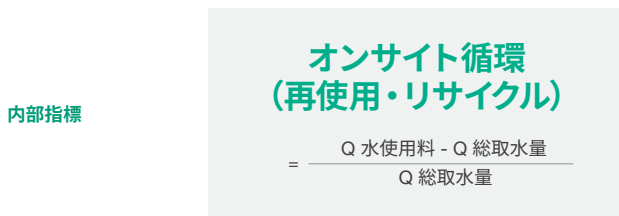


## 水のサーキュラリティ

マテリアルフローだけでなく水のサーキュラリティもサーキュラーエコノミーの重要な要素だと私たちは考えています。水が他の素材や資源と異なる点は、関係する生態系の大きさです。素材はグローバルなシステムの中で循環可能ですが、水のサーキュラリティは、集水エリアまたは地域の流域に関して局地的に評価する必要があります。水のサーキュラリティの目的は、水の需要を小さくし、全ての使用者と環境のための水資源量を保証することです。従って、水のサーキュラリティは、%水のサーキュラーインフローと%水のサーキュラーアウトフローによって求められます。これは現地の水況に左右されます。

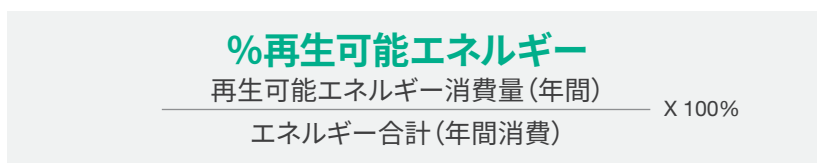


さらに、水のサーキュラリティの項目には、再使用とリサイクルによる社内施設の循環に焦点を当てた、社内を対象とするいくつかの指標があります。



## 再生可能エネルギー

サーキュラーエコノミーには再生可能エネルギーへの移行が必要です。大部分の企業は、事業活動の再生可能エネルギー消費を測定するための基準をすでに取り入れています。そこで、CTIでは、企業がこうした既存データを使用できるエネルギーを別にして考えることにしました。%再生可能エネルギーは次のように算出します。



## 水のサーキュラリティ測定指標ワーキンググループ

水のサーキュラリティ測定指標の開発は、WBCSDファクター10サーキュラー測定指標ワーキンググループとWBCSDのグローバル・ウォーター・ソリューション・プロジェクト、そしてBIER（飲料業界環境ラウンドテーブル）による協働の成果です。これらの機関が専門知識を投入し、施設レベルで水のサーキュラリティを評価するための確実で有意義な指標一式を開発しました。水のインデックスに関してさらに細かい説明と指針を示す補完的な指針と水のサーキュラリティ測定基準ツールをWBCSDとBIERが提供しています。



## 2. ループ最適化

このモジュールでは資源利用効率についての知見が示されます。  
このモジュールとインデックスの使用は任意です。

### クリティカルマテリアル

%クリティカルインフローは、クリティカル（重要）と考えられるインフローの割合を明らかにします。企業は社内のクリティカルマテリアル・リスト、または欧州委員会や米国地質調査所が編纂したリストなどの既存の公開リストを参照することができます<sup>8</sup>。これにより、企業が特定のマテリアルフローのリスクレベルを評価し、その結果に基づいて優先順位を決定することが可能になります。

算定方法は以下の通りです。

### % クリティカルフロー

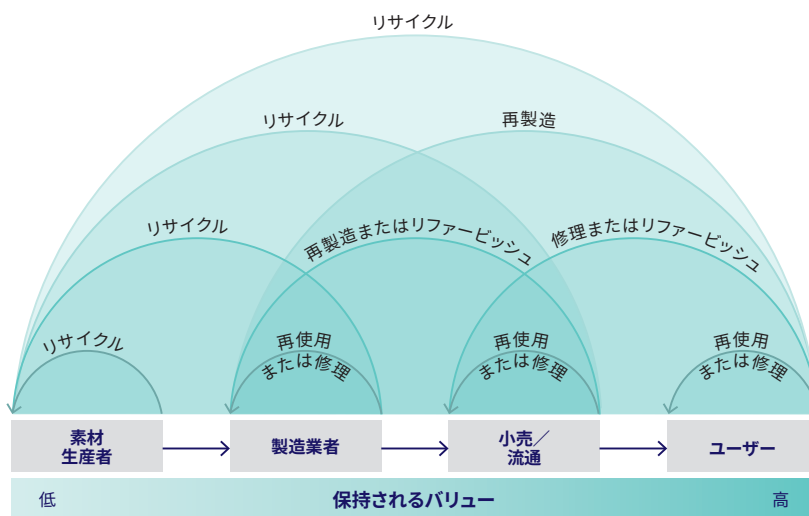
$$\frac{\text{クリティカルとして定義されるインフロー}}{\text{リニアインフローの質量の合計}} \times 100\%$$

### 資源循環タイプ

「ループ最適化」モジュールで資源循環のタイプごとのパーセンテージを示すもう一つの指標では、その企業がアウトフローをどのように資源循環し、それをバリューチェーンに再循環しているかに注目します。この結果は、資源循環されたアウトフローの内訳を、再使用／修理、リファービッシュ、再製造、リサイクルまたは生分解に分けてパーセンテージで示します。CTIオンラインツールは、「ループ化」で入力されたデータに基づいて、この内訳を自動的に生成します。

その企業がバリューチェーンのどの位置にいるかによって、資源循環ループにおける最適化の可能性は異なる場合があります。

図4: 資源循環のタイプと残存価値



### 新規の事項:カスケード

CTI v2.0では、技術的分野でのカスケードのためのモデルと生物分野のためのモデルの両方を取り入れました。

### 3. ループ評価

このモジュールでは、企業のサーキュラー（循環型）マテリアルフローが付加するビジネス価値を明らかにします。これらの指標の使用は任意です。

「ループ化」と「ループ最適化」のモジュールはマテリアルフローに注目しますが、「ループ評価」のモジュールはマテリアルフローを越え、サーキュラリティが最小限の資源でどれだけの最大価値を創出するかを検討します。

**サーキュラー型資源生産性**は、企業が財務業績と直線型資源消費をどれだけ有効にデカップリング（分離）しているかを表します。企業は、創出された収益を、「ループ化」モジュールで検討したリニアインフローの質量で割ることによって、サーキュラー型資源生産性を算定することができます。

算定方法は以下の通りです。

#### サーキュラー型資源生産性

収益

リニアインフローの質量の合計

サーキュラー型資源生産性が大きいほど、企業は直線型資源消費と財務業績を上手にデカップリング（分離）していることになります。資源生産性の変化を理解するための過去データの検討と、時間の経過に伴うデカップリング（または依存度上昇）の進展監視によって知見が得られます。

#### CTI収益指標

金融機関は、リスク緩和、金融投資機会、環境・社会への好影響という面でサーキュラーエコノミーがもたらす価値をますます認識するようになっていきます。投資家は、循環型投資を通じて創出された価値をしっかりと把握することによって、サーキュラリティに関して進歩を見せた企業を積極的に認識し、これらの企業に見返りを与えることができます。

しかしながら、資源効率とそれに関連する財務上のメリットという両方の観点からサーキュラリティパフォーマンスを測定するための一貫した方法が存在しないことが、循環型投資のスケールアップを阻んでいました。

企業は「ループ化」の結果を利用して、循環型CTI収益指標を測定します。この指標は、製品（グループ）または事業部門の%サーキュラーインフローと%サーキュラーアウトフローの加重平均を求め、さらにその製品（グループ）または事業部門が創出した収益を乗じることによって求められます。「ループ化」で説明したように、マテリアルフローの重量に基づいて、%サーキュラーインフローと%サーキュラーアウトフローを算出します。

言い換えると、その企業のCTI収益指標とは、自社の製品ポートフォリオのサーキュラリティのパーセンテージに関して調整を加えた後の収益ということになります。ある製品のCTI収益指標は次のようにして求めます。

#### CTI収益指標（製品）

$$\left[ \frac{(\% \text{サーキュラーインフロー} + \% \text{サーキュラーアウトフロー})}{2} \right] \times \text{収益}$$





ある事業部門または会社全体のCTI収益指標を求めるときは、算出した全ての製品CTI収益指標を合計します。

### CTI収益指標 (会社全体)

CTI収益指標A  
+ CTI収益指標B  
+ CTI収益指標C + …

CTI収益指標が大きいほど、企業は循環型の製品／事業から収益を上手に生み出すことができています。サーキュラーフローによって収益が増大するので、この測定基準にはデカップリングも反映されます。



# 技術的資源循環サイクルと生物的資源循環サイクル

サーキュラーエコノミーでは、図5に示すように2つの明確な側面が認識されます。それは、技術的資源循環サイクルと生物的資源循環サイクルです。

技術的素材は、さまざまなループ、すなわち保守と修理、再使用と再流通、リファービッシュと再製造、そして最後にリサイクルによる技術的サイクルを通じて資源循環できます。

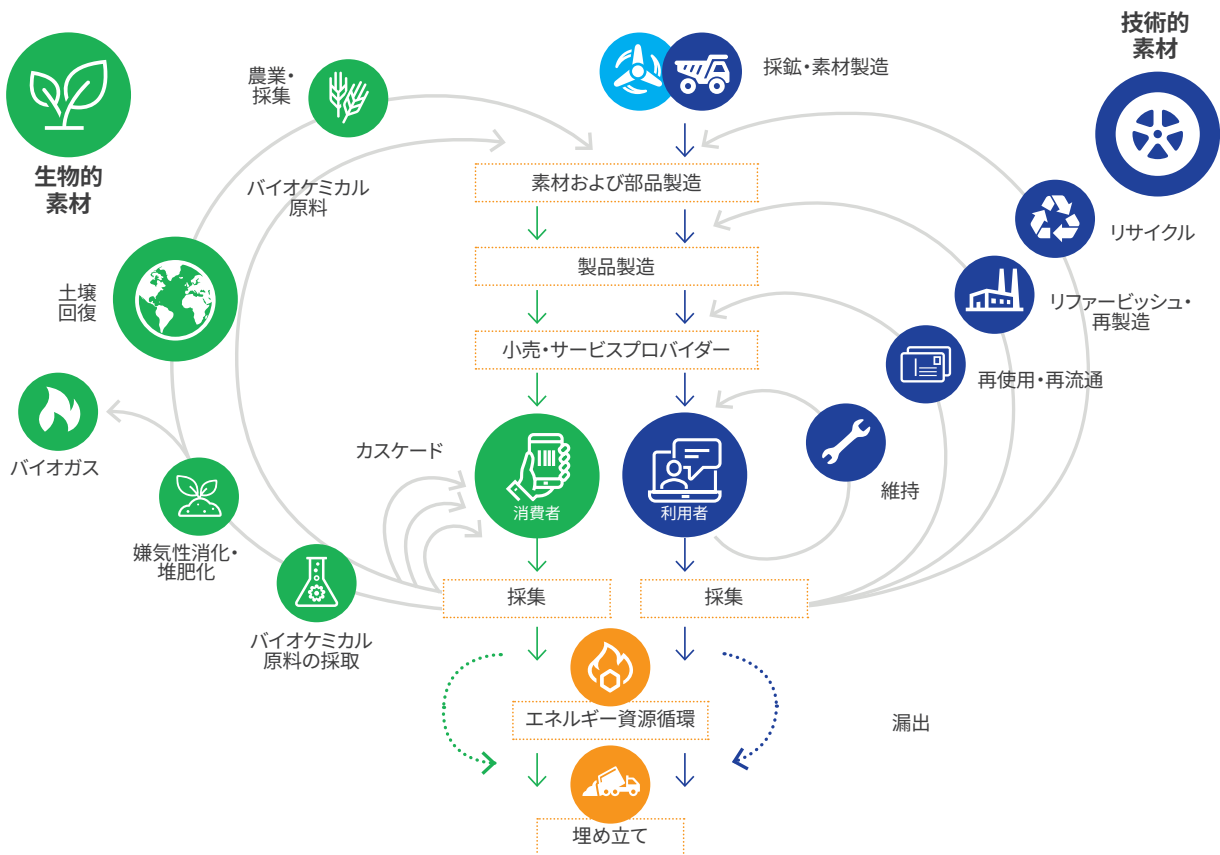
一方、図の左側で示すように、バイオベースの資源は異なる資源循環経路を辿ります。バイオベースの資源は、新たなサイクルのための栄養素の再使用という形で、寿命が終わるときに生物的サイクルに戻っていきます。

バイオベースの資源は無尽蔵というわけではなく、持続可能な方法で管理された資源に由来する必要があるという点を指摘しておかなければなりません。

## 新規の事項:生物的サイクルに関するガイダンス

CTI v2.0では、生物的サイクルと技術的サイクルの両方をどのように理解すればよいか、マテリアルフローのサーキュラリティに関してそれが何を意味するかについてのガイダンスがさらに詳しく示されるようになりました。

図5: 技術的資源循環サイクルと生物的資源循環サイクル



\*EMF <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/>を引用・編集

## 技術的素材と生物的資源の区分

各種のサーキュラリティ測定フレームワーク間の一貫性をできる限り高めるため、エレン・マッカーサー財団による以下の定義に基づき、各サイクルにおける素材を分類しました。

### 技術的サイクルに適した素材

企業が使用、再使用／再流通、維持／寿命延長、リファービッシュ／再製造またはリサイクルできるもの。金属、プラスチック、合成化学物質など全ての無機素材と化石素材の他、技術的サイクルの中での使用を目的とするバイオベースの素材がここに含まれます。ケミカルプロセスにおいて反応物質として使用される生体由来の素材、および技術的素材として機能する別の素材または製品の主成分を形成する素材もこのカテゴリーに含まれるので注意してください。

### 生物的サイクルに適した素材

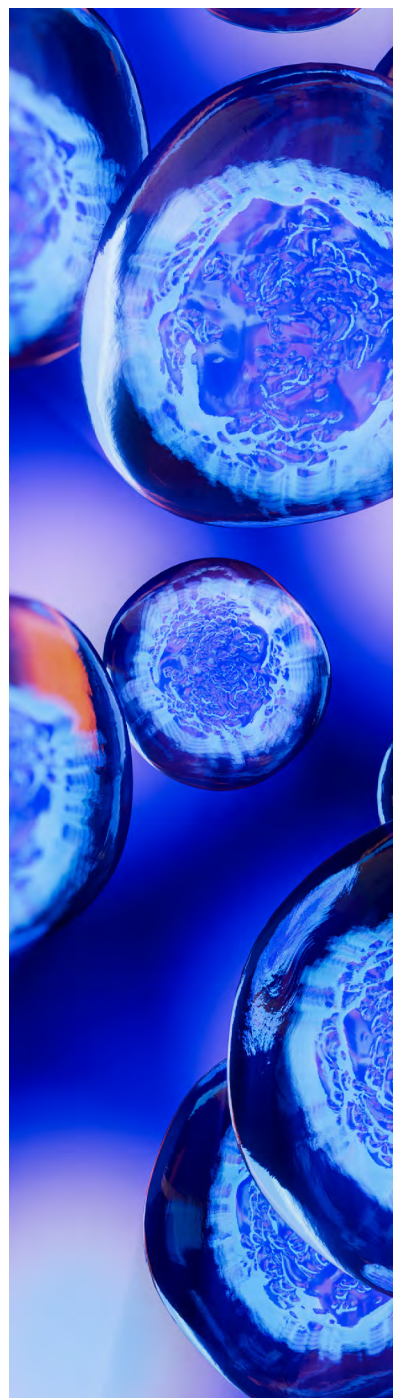
企業が消費するもの、または次のサイクルで栄養素、繊維、または栄養素を豊富に含まない素材に転換するために安全に資源循環して生物的サイクルに投入するもの。

バイオベースの資源は以下のようなサイクル間での移動が可能です。

- 木材はバイオベースであり、生分解可能ですが、技術的サイクルの他の技術的素材と同様に再使用またはリサイクルも可能です。
- バイオベースプラスチックは、技術的サイクルにおいて化石燃料ベースのプラスチックと同じ働きをします。

技術的サイクルにおいて生物的素材が持つ寿命を最大限に延ばすことが必要ですが、寿命が尽きた時点で、企業は栄養素を生物的サイクルに安全に戻すことを最終目標とすべきです。

詳しくはユーザーマニュアルに記載された追加ガイダンスをお読みください。





# CTIプロセスのサイクル

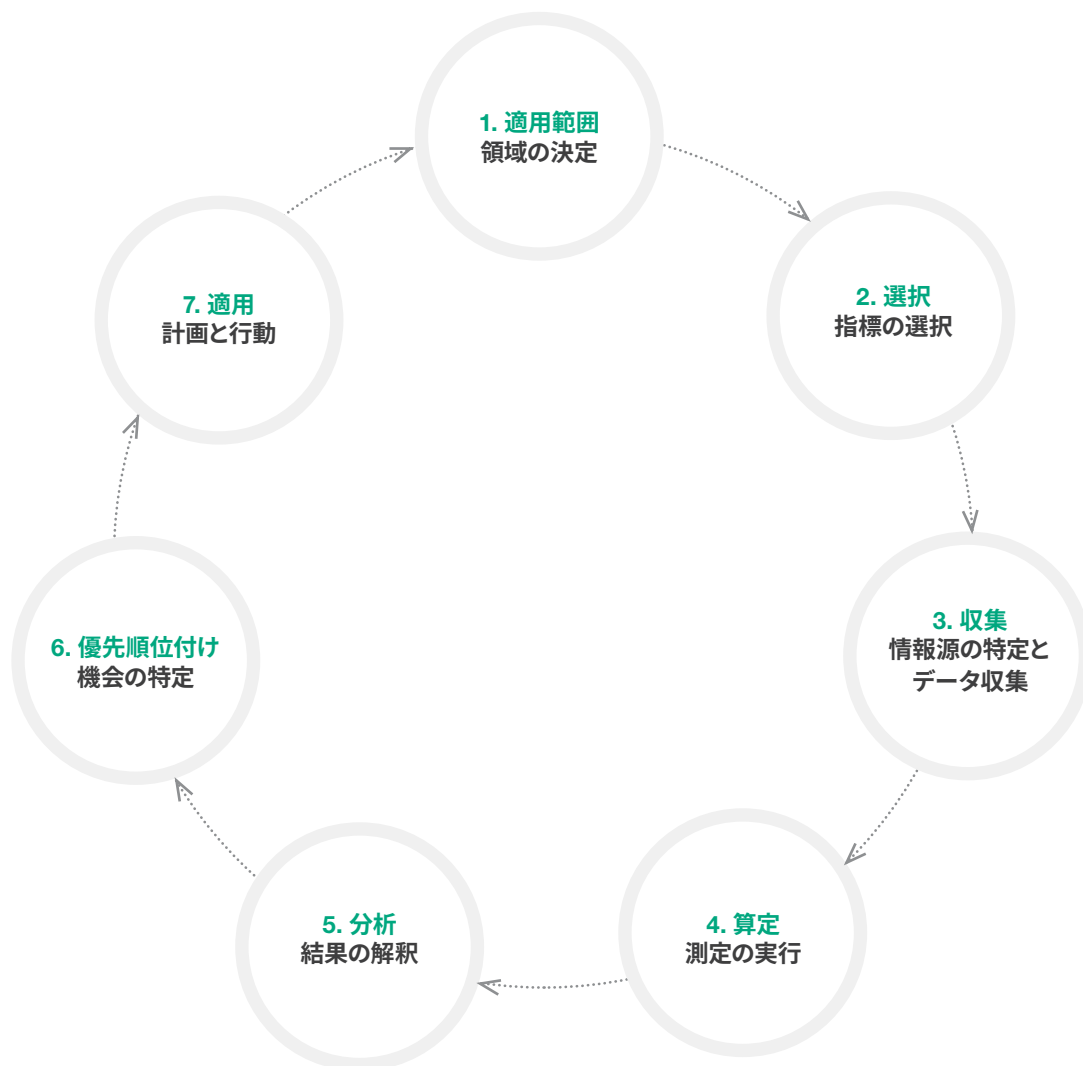
フレームワークでは、一つの評価サイクルをなす7つのプロセスステップを概説しています。初めて評価を実施すると、情報と知見が得られます。

しかし、サイクルを定期的に繰り返すことで、企業はサーキュラー・トランジションにおける進捗状況をモニターすることができます。

## 互換性

このプロセスステップ形式のアプローチは、[Natural Capital Protocol](#)など、他の産業フレームワークから引用し、それらのフレームワークに合わせたものです。

図6: プロセスサイクル



# CTIを始めるには

詳細についてご関心がある場合や、自社のセキュリティ算定を開始するのにCTIとオンラインツールを使用する可能性がある場合には、いくつかの推奨事項があります。

これは難しい作業のように見えるかもしれませんが、プロセスを円滑に進めるために利用できる無償のリソースが多数存在します。下記のリソースをお勧めします。

1. データの探し方、結果を解釈する方法、得られた知見をアクションに転換する方法の詳しい説明については、ユーザーマニュアルをご覧ください(29ページ参照)。
2. CTIアカデミー ([www.wbcasd.org/ctice](http://www.wbcasd.org/ctice)) をご覧ください。こちらのサイトでは、ウェビナーの視聴、ケーススタディへのアクセス、トレーニングセッションや対話型ウェビナーなどの次回イベントの申し込みが行えます。
3. 次に、自社の評価をスムーズにスタートさせるために、[www.ctitool.com](http://www.ctitool.com)でエッセンシャルCTIオンラインツールのライセンスを登録してください。登録は無料です。
4. 狭い範囲で簡単なテスト評価を開始しましょう。これは、会社がすでにデータを持っている内容で構いません。

## 常につながる

情報を受け取ったり、参加したりする方法が用意されています。

## 最新情報を得る

[www.wbcasd.org/ctice](http://www.wbcasd.org/ctice)を定期的にチェックして、フレームワークのアップデートがないかどうかを確認してください。

- CTIセキュラーに登録し、フレームワークのアップデート通知を受け取ってください。
- イベントカレンダーに注意を払い、ウェビナーやトレーニングの予定を確認の上、お申し込みください。

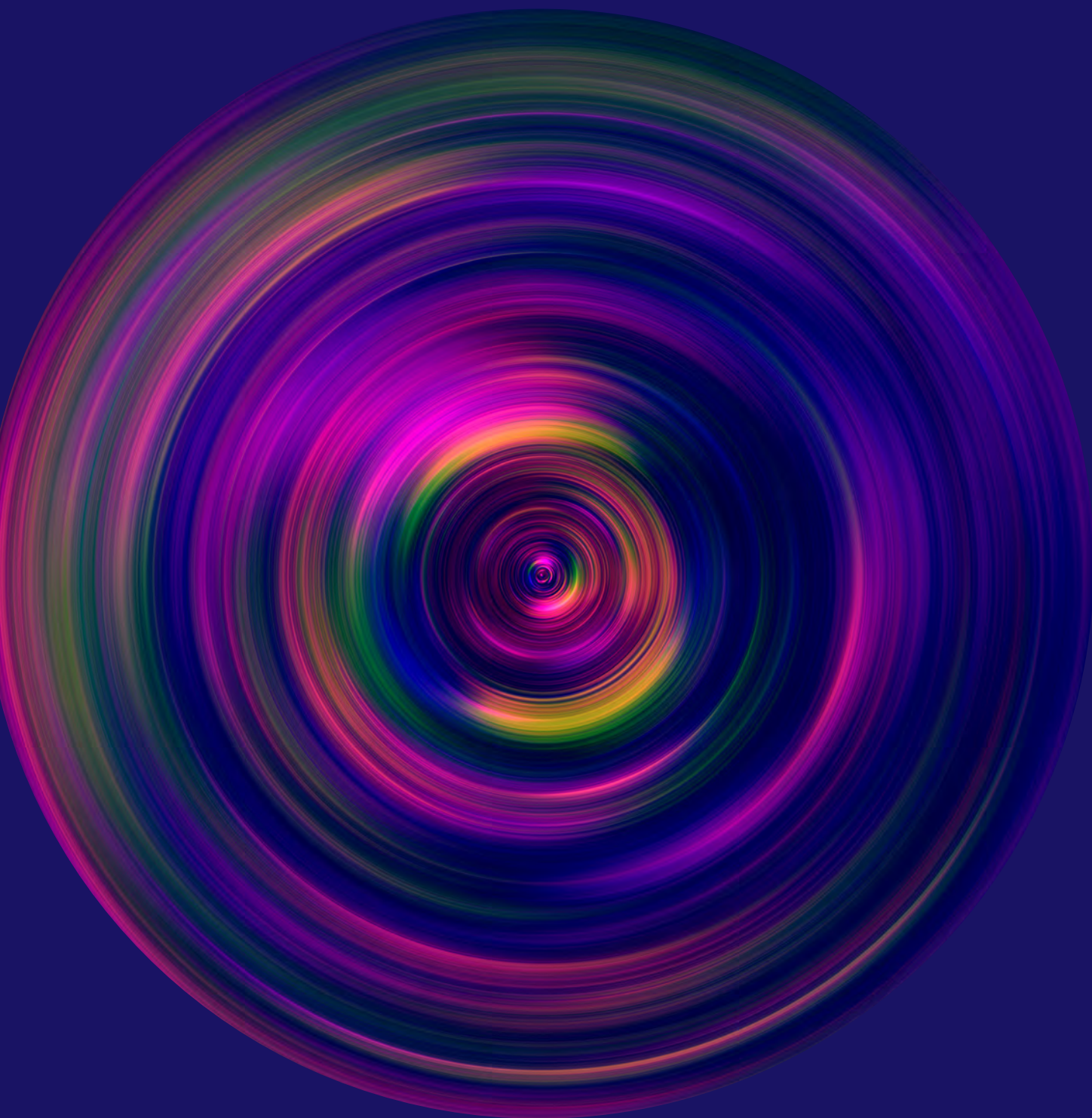
## 参加する

CTIオンラインツール ([www.ctitool.com](http://www.ctitool.com)) のフィードバック機能を使って、御社の知見やアイデアを伝えてください。

WBCSDとファクター10セキュラー・メトリクス・ワーキンググループ ([cti@wbcasd.org](mailto:cti@wbcasd.org)) に参加して、今後のCTI開発の方向付けを積極的にお手伝いください。

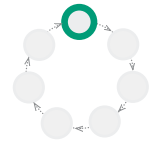
## 第2部

# サーキュラー・トランジション・インデックス： CTIユーザーマニュアル V2.0





# ① 適用範囲 領域の決定



指標メニューから指標を選択する前に、サーキュラリティ評価計画を立て、以下の事項を確実に行うことをお勧めします。

- 時間をかけて、適切な理由のための適切なデータセットを模索します。
- 評価結果からどのような知見を得たいのかを理解しておきます。
- それらをどのように前進させることができるかについて計画を立てます。

開始時に、**評価の目的は何か？**を問います。

目標設定にあたり以下のような質問を検討します。

- サーキュラリティはなぜ当社にとって重要なのか？
- この評価を行うことによってどの質問に答えたいのか？
- 評価の結果および知見の読み手はだれか？この読み手にこの知見と情報で何を行って欲しいのか？読み手は結果が分かった後に、どのような他の質問をする可能性があるのか？
- 第一にどの事業部門、製品グループ、あるいは特定の素材に焦点を当てるべきか。どのような分野が、全ての利害関係者の最適価値を増大する上で影響を持つのか？

ここでは利害関係者との対話と協力が役立つことがあります。目標が設定されたら、次のような質問を用いて、適用範囲を設定します。

## 1. どのようなレベルのビジネスを評価するのか？

会社全体を評価することができますが、事業単位、生産拠点、または製品ラインなどの会社の特定部分を評価することもできます。

## 2. 時間枠は？

年次財務サイクルと一致する1年の時間枠が自然な選択肢です。しかし、生産サイクルまたはその他より意味のある時間枠（建設部門または資本設備に関連するものなど）の使用も有益なことがあります。これについては十分に検討し、その他の適用範囲パラメータを補完するものを選択します。

## 3. 何を含め、何を除外するのか？

ほとんどの企業にとって、全てのマテリアルフローのデータを100%得ることは非常に困難でしょう。このことは、評価には一部のフローが含まれなかったり、あるいは代案や仮定を使用しなくてはならなかったりすることを意味します。企業はこれらの代案や仮定、除外するストリームを自由に設定できますが、結果を公表するつもりがある場合は、それらの事項を入念に文書化し、全て開示しなければなりません。

## 例 問い

- どこからスタートしたらよいのか？また、当社の機会とは？
- 最もサーキュラリティが高いのはどの事業部門か？部門の境界を越えて得た知識をどのようにすれば取り入れられるか？
- サーキュラーな活動が当社事業にとって良いかどうかどのように評価するのか？

## 例

### 対象者

これについて対話を行う相手とは、取締役、従業員、サプライヤー、取引先であるのか？調査結果を提示した後に、そうした人々から何を期待するのか？

## 例

### 重点素材

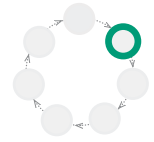
この質量基準の測定方法では、もともと重量が軽い素材ストリーム（プラスチック、包装資材など）の可能性を見落とすおそれがあります。今こそ、機会を確実に捉えるためにも、御社のチームが特別に重視したいモノの流れを決定するときです。

## 例

### 除外するフロー

製造会社にとって、事業運営上の素材の相対的質量（例：オフィス備品）は、生産資源に比べ、取るに足りないものであることがあります。そのような企業が、評価において、このような比較的小さなフローを含めないのは妥当でもありえます。

## ② 選択 指標の選択



目的が把握できた時点で、CTIは指標一覧を提示します。企業はこれを使って範囲設定段階からの問いに答えることができます。

### ループ化

企業の素材ループを閉じる能力は、フレームワークの中心に据えられています。

その結果として、企業は次の指標を使って評価を開始します。

- %サーキュラーインフロー
- %サーキュラーアウトフロー
- %水のサーキュラリティ
- %再生可能エネルギー

### ループ最適化

これらの指標は、企業が素材の確実なループ化を超えて、資源効率の最大化に関してどれだけの実績を上げたかを表します。

モジュールには2つの指標が含まれています。

- %クリティカルマテリアル
- %資源循環タイプ
- オンサイト水循環(施設での再使用・リサイクル)

### ループ評価

このモジュールは循環型ビジネスが生み出す価値に対し、知見を与えるものです。

ここでは、マテリアルフロー指標と従来の財務測定基準を結び付けます。このモジュールで取り扱うのは次の指標です。

- サーキュラー型資源生産性
- CTI収益指標

指標を選択する際には、各指標を慎重に検討し、その指標の評価を選択した理由、さらにいずれかの指標を除外した場合はその理由を文書化しておくことをお勧めします。

#### 例

##### 問いA

2つの事業部門はサーキュラリティパフォーマンスについてどのように互いから学ぶことができますか？

双方の事業単位の評価を行うことで、これらと比較し、事業単位間でベストプラクティスを複製することができるようになります。

#### 例

##### 問いB

循環型ビジネスパフォーマンスを最高財務責任者にどのように紹介できますか？

サーキュラー型資源生産性は、サーキュラーエコノミーの財務パフォーマンスおよび経済パフォーマンスを決定するのを支援するものであり、社内利害関係者とのコミュニケーションを可能にします。

#### 例

##### 問いC

どのような素材が、循環型調達戦略の出発点を提供しますか？

%クリティカルマテリアルは、供給リスクを低減するために組織はどの素材を優先的に取り扱うべきであるかを示します。

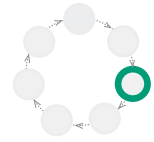
#### 注: ご質問がありますか？

御社には、これらの指標で答えが得られないようなご質問がありますか？その他の指標を作成した方がよいかどうかを検討したい場合は、WBCSDサーキュラー・メトリクス・チーム

([cti@wbcsd.org](mailto:cti@wbcsd.org)) にお問い合わせください。

## ③ 収集

# 情報源の特定とデータ収集



データ収集は、プロセスの中でも最も手間がかかる可能性が大きな部分です。データポイントによって、比較的入手しやすいものと他の部署との協力を要するものがあります。関連のデータ、特にインフローと実際のアウトフローの資源循環の数についてデータを収集するためには、企業はバリューチェーンのパートナーと連携する必要がまずあるでしょう。以下は各指標モジュールに必須のデータセットのリストです。

### ループ化

#### %サーキュラーインフロー（マテリアルフロー当たり）

- インフロータイプごとの再生可能原料の割合（%）または非バージン原料の割合（%）（32ページの定量に関するガイダンスを参照）
- 各インフロータイプの質量

#### %サーキュラーアウトフロー（マテリアルフロー当たり）

- アウトフロータイプごとの%資源循環可能性（35ページの定量に関するガイダンスを参照）
- アウトフロータイプごとの素材回収率
  - 地域別資源循環率
  - 部門別資源循環率
  - 自身の買い戻し／引き取り契約、パートナーシップシステム、収集と資源循環プログラムなどからの素材資源循環率（該当する場合）
- アウトフロータイプごとのアウトフローの質量

#### %水のサーキュラリティ

- 水インフローの水量、水質および水源
- 取水した水の水源の脆弱性
- 水アウトフローの水量、水質および水源
- 現地の法律上の排水基準

#### %再生可能エネルギー

- 再生可能エネルギー消費量（年間）
- エネルギー消費量（年間）

#### MFA

体系的評価の準備にあたってマテリアルフロー分析（MFA）を行うことは有益です。MFAは評価の堅牢性を高めると考えられます。また、一部の企業にとっては望ましい選択肢かもしれませんが、できるだけ使いやすくするために、私たちはこのフレームワークの必須プロセス段階としてMFAを取り入れませんでした。また、MFAを必須のプロセス段階として取り入れることが必要だと私たちは考えていません。既存のMFAからの結果は、手始めにこれを使って評価を行う上で役立つ可能性があります。

#### オンラインツール

CTIオンラインツールはデータ収集に役立ち、このステップにおける負担を最小化します。

#### 文書化

データ収集にあたっては、情報源を文書化し、正当性の根拠を記すことを推奨します。こうした文書をツールにアップロードすることで、今後のサイクルにおいてデータ抽出に役立ち、結果および組織に蓄積された記録の堅牢性が向上します。



## ループ最適化

### %クリティカルフロー

- その企業内部のクリティカルマテリアル・リスト、または
- 各国もしくは地域の既存公開リスト(欧州委員会の重要な原材料30種リストや米国の重要鉱物35種リストなど)<sup>8</sup>

### %資源循環タイプ

資源循環されたアウトフローごとの資源循環タイプ例

- 技術的サイクルの中を移動する製品の再使用、修理、リファービッシュ、再製造、リサイクル
- 生物的サイクルの中を移動する製品に関する、所定の条件下での有機体による消費、バイオケミカル原料の採取、生分解、バイオガスまたはバイオマス・エネルギー資源循環

### オンサイト水循環

- 当該施設におけるプロセスごとの必要水量
- 当該施設におけるプロセスごとの必要水質レベル

## ループ評価

### サーキュラー型資源生産性

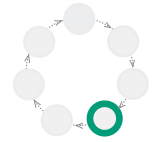
- 評価対象事業の収益

### CTI収益指標

- 製品(グループ)ごとの収益
- 製品または製品グループごとのサーキュラリティレベル(ループ化指標に基づく)



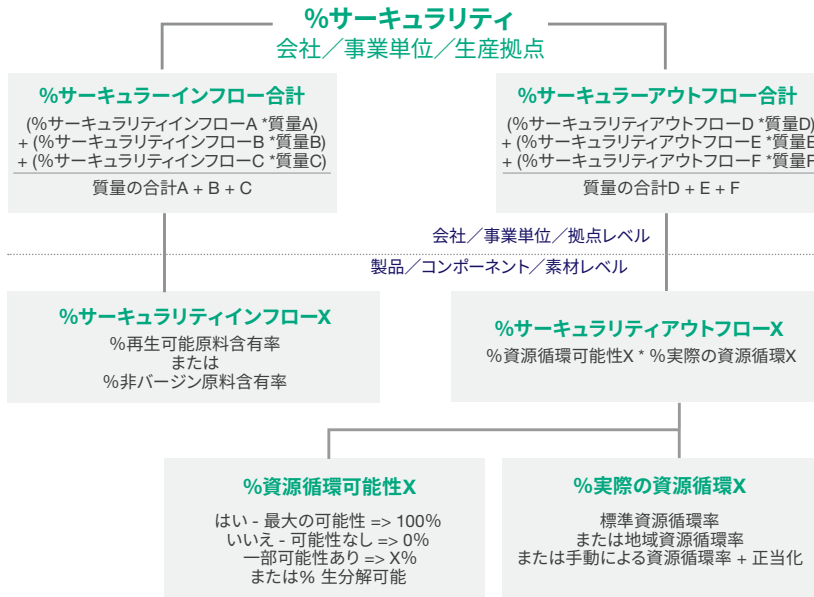
# ④ 測定 測定の実行



## ループ化

図7は、%サーキュラリティ測定方法の概要を示したものです。

図7：%サーキュラリティ



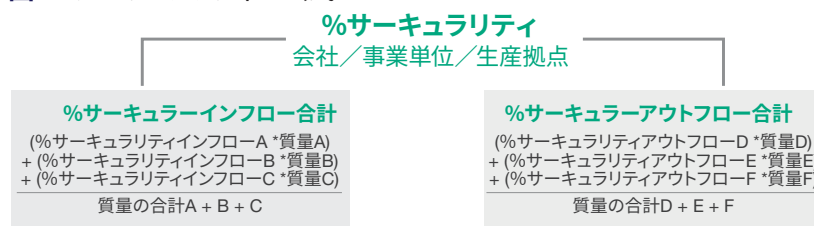
%サーキュラリティ(%サーキュラーインフローと%サーキュラーアウトフローの加重平均)は、全体的なループ化のパフォーマンスを示します。

図8：4つの主なマテリアルフロー



%サーキュラーインフローと%サーキュラーアウトフローは、どちらも各フローの%サーキュラリティの加重平均を含んでいます。従って、フローレベルで%サーキュラリティを評価する必要があります。

図9：サーキュラリティの公式



## 評価レベル

CTIは企業全体だけでなく、事業単位や生産拠点など、その企業の特定部分も評価できます。

## 加重平均

サーキュラリティ率は、重量ベースのサーキュラーインフローとサーキュラーアウトフローの平均を、インフローとアウトフローの合計で除して求めます。多くの場合、平均は50%/50%前後になりますが、(在庫品が多いなど)特殊なケースの場合は加重平均を求めてギャップを修正する必要があります。

## マテリアルフロー

マテリアルフローには、栄養素、化合物、材料、部品、コンポーネントまたは製品すら含まれます(組織による)。

## 水

水は企業が多様な目的で使用する特異な資源です。企業が使用するその重さと量によっては、水は評価の結果を歪めることがあります。そこで、水を全体のパフォーマンスの一部として取り扱うことをせず、水独自の指標を設けました。

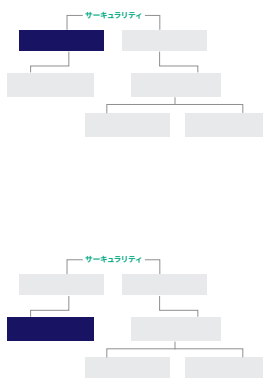
## %サーキュラーインフロー

次の指標はインフロー・マテリアルの合計サーキュラリティを評価します。

### %サーキュラーインフロー合計

$$\frac{(\% \text{サーキュラリティインフローA} * \text{質量A}) + (\% \text{サーキュラリティインフローB} * \text{質量B}) + (\% \text{サーキュラリティインフローC} * \text{質量C})}{\text{全てのインフローの質量の合計 (A + B + C)}}$$

つまり、インフローの%サーキュラリティ(循環利用率)はマテリアルレベルで決定する必要があるということです。



## 技術的サイクルに関するガイダンス

技術的インフローは次のいずれかと考えられます。

### • バージン／一次:リニア(直線型)

これらのマテリアルは使われたことがないものです。こうしたマテリアルの場合:

$$\% \text{サーキュラリティインフローV} = 0\%$$

### • 非バージン／二次:サーキュラー(循環型)

これらのマテリアルは、前のサイクルで(部分的に)使われたことがあるものです(例えば、再使用、再製造、リサイクルなど)。これらのマテリアルの場合:

$$\% \text{サーキュラリティインフローNV} = \% \text{資源循環済みコンテンツ}$$

%サーキュラーインフローの場合、マテリアルは再生可能または非バージンなので、その素材がサーキュラーとみなされるか否かは重要ではありません。どちらの区分も同じくサーキュラーとしてカウントされます。

場合によっては、インフローは再生可能かつ非バージンであることがあります。このような場合は二重カウントを防ぐため、サーキュラー・カテゴリーのいずれかのみでインフローをカウントします。

### 例:区分

企業とそのバリューチェーンにおけるポジションによっては、3つのストリームの各量を決定するのは困難な場合があります。ここにおける最も重要な区別は、サーキュラーフローをリニアフローから分離することです。

### 廃棄物管理

会社に入力している廃棄物ストリームが再生可能か、それとも二次廃棄物かを特定できない場合があります。

流入してくるこの廃棄物はもともとバージン材料ではありません。従って、この場合、企業はこのマテリアルを非バージン材料または二次材料としてカウントできます。追加的なフロー(加工原料など)を計算に入れさえすれば、全体の残りはサーキュラー(循環型)とみなすことができます。

### マテリアル生産

バリューチェーンの反対にあるマテリアル生産者にとっては、バージンの再生可能インフローと二次的インフローを特定するのはずっと容易な可能性があります。この場合、企業はその他全てのインフローをリニア(直線型)としてカウントできます。



## 生物学的サイクルのためのガイダンス

バイオベースのインフローは次のいずれかと考えられます。

### • 再生可能:サーキュラー(循環型)

企業はバイオベースのインフローが持続可能な方法で生育・補充されるか、または採取後に自然のサイクルを通じて再生育されている場合に、そのインフローをサーキュラーとみなすことができます。できれば再生可能で、少なくとも持続可能な形で管理されているインフローをサーキュラーとします。(定義一式と参考資料については70ページの用語集を参照してください。)

インフローは全部または一部が再生可能なコンテンツで構成されることがあります。この場合:

$$\% \text{サーキュラリティインフロー} = \% \text{再生可能原料含有量}$$

### • 再生不能:リニア(直線型)

CTIでは、持続可能な形で管理されていないバイオベースの資源は再生可能とみなされません。従って、これらの資源は循環型ではありません。これらの資源に関しては次のようになります。

$$\% \text{サーキュラリティインフロー} = 0\%$$

サーキュラーエコノミーは再生可能か持続可能か

サーキュラーエコノミーは、生態系が現在の圧力から解放され、回復と自己再生型システムへの転換の機会を与えられる完全回復型モデルです。結果として、生態系は持続可能な資源を自動的に生み出すこととなります。

現時点で、CTIにおける再生可能なインフローは、再生可能であることが望ましいが少なくとも持続可能な形で管理されている資源に重点を置きます。

持続可能性を超える高い目標を掲げ、生態系の健康回復における自社の再生能力を測定したいと考える企業のために、WBCSDはさらにもう一つ、別な指標セットの開発を検討しています。

こちらの指標開発への参加に関心をお持ちの方は、

[CTI@wbcsd.org](mailto:CTI@wbcsd.org)にお問い合わせください。



## 代替算定方法%サーキュラーインフロー

CTIは、%サーキュラーインフローのボトムアップ算定法だけでなく、%サーキュラーインフローのトップダウン算定法も提供しています。企業によってはこちらの方が使いやすいかもしれません。

### %サーキュラーインフロー

$$\frac{(\text{再生可能なインフローの質量} + \text{非バージンインフローの質量})}{\text{全てのインフローの質量の合計}} \times 100\%$$

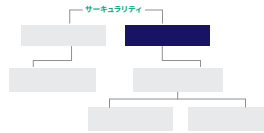
必要なデータセットは同じであり、2つのアプローチの結果は同じものになります。

## %サーキュラーアウトフロー

%サーキュラーインフローの合計と同じく、この式も合計 x 100%を測定します。アウトフローの製品、副産物および廃棄物ストリームのサーキュラリティ:

### %サーキュラーアウトフロー合計

$$\begin{aligned} & (\% \text{サーキュラリティアウトフローD} * \text{質量D}) \\ & + (\% \text{サーキュラリティアウトフローE} * \text{質量E}) \\ & + (\% \text{サーキュラリティアウトフローF} * \text{質量F}) \\ & \text{全てのアウトフローの質量の合計 (D + E + F)} \end{aligned}$$



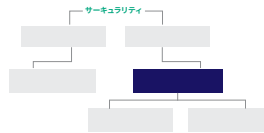
すなわち、%サーキュラーアウトフローは、アウトフローのタイプごとに測定する必要があるということです。

%サーキュラーアウトフローは、企業が全体として次のことをどれだけ有効に行っているかを示します。

1. 自社のアウトフローが資源循環可能になるように設計または処理する。例えば、技術的サイクルのアウトフローは修理、リファビッシュ、製造またはリサイクルが可能であるべきであり、生物的サイクルのアウトフローは生分解可能であるべきです。これが%資源循環可能性です。
2. 経済サイクルまたは生物的サイクルで、会社から出ていく製品、副産物および廃棄物ストリームが資源循環可能であることを実証する。これが%実際の資源循環です。

### %サーキュラリティアウトフローX

$$\% \text{資源循環可能性} \times \% \text{実際の資源循環率}$$



その材料が、技術的資源循環の可能性を持てるような方法で処理されず、かつバリューチェーンまたは生物的サイクルへの再導入も不可能な場合、そのアウトフローはリニア(直線型)とみなされます。

## 二重カウント

企業は、再生可能かつ非バージンであるインフローを一回だけカウントすべきです。

その材料をどちらの区分でカウントすべきかの選択は企業に委ねられます。

## 含まれるアウトフロー

アウトフローとしてカウントするフローには、固体、液体、気体の形態をとる販売済み製品(パッケージを含む)、副産物および廃棄物が含まれます。これには工程または操業上の副産物または廃棄物が含まれません。

## 例: 資源循環可能性は高いが実際の資源循環率が低い

多くの場合、旧式の情報機器や電気通信機器は部分的に解体可能です。つまり、資源循環可能性が高いということです。

しかし、その焼却(エネルギー資源循環を伴う、伴わないに関わらず)は、材料を破壊します。機器の価値と再利用、リファビッシュまたはリサイクルの可能性は消滅するので、実際の資源循環率は0%で、サーキュラーアウトフローは0%となります。

## %資源循環可能性

%資源循環可能性は、その企業が技術的サイクルまたは生物的サイクルを通じてアウトフローを技術的に資源循環できるようにするために、アウトフローをどれだけ上手に設計できるかを示します。

大半のフローにおいて、典型的な分類は以下の通りです。

はい、このアウトフローは完全に資源循環可能です。つまり資源循環可能性は100%。

あるいは

いいえ、このアウトフローは資源循環不能です。つまり資源循環可能性は0%。

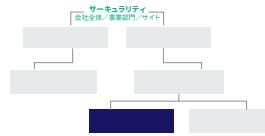
### %資源循環可能性X

はい-完全に可能 = 100%

いいえ-可能性ゼロ = 0%

ある程度の可能性 = X%

または%生分解可能



## 技術的サイクルに関するガイダンス

製品、副産物または廃棄物で構成される可能性がある技術的アウトフローについては、資源循環可能性を判断しなければなりません。資源循環可能性の測定に関してサポートが必要な場合は、私たちに細かい助言を求めてください。

新しい技術が開発されるに従い、サーキュラー（循環型）とリニア（直線型）の線引きは難しさを増します。化学品のリサイクルなど、何がプロセスにおいてサーキュラーに適格であるかについては、全世界で議論が盛んになっており、このフレームワークは普遍的な回答を提供するものではありません。ここに暫定的な指針を掲げておきます。レベルを問わず（分子レベルもありえます）、ある技術的マテリアルが技術的に可能かつ採算の取れる方法で、二回目の寿命においても機能的に同等のマテリアルであり続ける場合、それはサーキュラー（循環型）です。企業が無機原料または化石原料をダウンサイクルするか、または燃料に転換する、もしくは形状や形態を問わず燃やす場合、それはリニア（直線型）です。

### 例：パネル

金属とプラスチックシートを接着剤で接合して製作される建設パネルは、製品の技術的な寿命を終えた後は、こうしたマテリアルを分離し、回収することが不可能であるため、回収可能性がまったくありません。回収可能性は0%です。

これと比較し、ネジやリベットで接続されているパネルは、双方のマテリアルを分離し回収することが（個々のマテリアルの特性に応じて）可能であるため、100%の可能性がります。ネジやリベットは、再使用やリサイクルも可能である場合があります。

### 例：紙

天然の紙は生物圏により100%回収することができます。

しかし、漂白や染色、印刷または無機物質を使用したコーティングによる汚染は、その生物分解能力を阻み、資源循環を不可能にし、そのため資源循環可能性が0%になることがあります。



## 生物学的サイクルのためのガイダンス

生物圏での吸収に適した資源の場合、資源循環可能性は何を意味するでしょうか。これは2つの基準(生分解性と毒性)によって決定されます。

### 生分解性

その製品またはマテリアルフローは、どの程度生物学的に分解可能でしょうか。

%資源循環可能性は、消費者が寿命終了時に技術的コンポーネントからバイオベースの資源を分別できるという条件下での、コンポーネントまたは化合物の%生分解性の加重平均です。技術的なマテリアルとバイオベースのマテリアルを結び付ける形で設計された、いわゆるハイブリッド型製品を考えてください。消費者はそれらのマテリアル(例えば、綿と合成繊維の両方を使った衣類や、マイクロプラスチックを含むシャワースクラブ)を分別できないので、資源循環可能性は0%となります。

[経済協力開発機構\(OECD\)の生分解性試験基準](#)に生分解性についての説明があります。また、この他に国際標準化機構(ISO)とオランダ規格協会(NEN)の規範も参考にすることができます(例:堆肥化可能性)。

企業は、自社の業務上のニーズに最も合致する基準を判断し、好ましい基準を自由に選択できます。

### 毒性

製品またはマテリアルフロー(固形、液体または気体)に、生物学的サイクルに害を及ぼす物質が含まれていませんか。

ある製品の毒素または有害物質が所定の基準の範囲内である場合に限り、その製品は資源循環可能性を持つと考えてください。

サーキュラーエコノミーの測定基準全体に一貫性を持たせるため、CTIは「[Cradle to Cradle Certified](#)」製品プログラム、[ドラフト v4制限物質リスト\(RSL\)](#)を参照します。

RSLには、特定された全物質の合否基準が示されています。このリストを使い、自社の生分解可能なアウトフローに含まれる有害物質の合否レベルをチェックすることができます。

### 食品廃棄物

初期設定として、食品廃棄物は生分解可能とみなします。現地当局(例えば、米国食品医薬品局)が人または動物による摂取を許可した場合には、**資源循環可能性**を確実に100%と考えることができます。

食品の場合、CTIでは、その食品が実際に用途通りに使用されているか(摂取されることによって、生物圏の他の生命体に栄養素を提供しているか、または別の目的のために再使用されているか)、それとも廃棄もしくはロスになっているかに焦点が置かれます。

従って、**%実際の資源循環(実際の資源循環率)**は、食品のループ化の成否を測定する重要な指標となります。



## 生物学的サイクルのためのガイダンス

多くの技術的マテリアルの資源循環データは、地域やセクターによって異なります。正確な評価を期すため、入手できるのであれば、販売／使用の地理的範囲およびセクター特有のデータ(またはそのいずれかのデータ)に基づいて、その製品／マテリアルの初期設定値を検討することを推奨します。技術的マテリアルの資源循環にはエネルギー資源循環は含まれず、マテリアル資源循環のみが含まれます。

技術的サイクルと同様に、CTIは生物学的サイクルが生物資源を吸収できるようなさまざまなループを提案しています。これについては「ループ最適化」の項でさらに詳しく説明します。

製品またはマテリアルフローが生物学的サイクルで実際に資源循環されたとみなされるのは、(例えば、堆肥化のように)設計時に意図された通り生分解する場合に限られます。

## バイオ燃料とバイオマスからのエネルギー資源循環

技術的サイクルとの一番大きな違いは、バイオベースの資源は自然の燃焼プロセスで生物学的サイクルに戻るという点です。しかし、CTIにおいて、これが起きる条件が循環型とみなされるのは、次のように、[エレン・マッカーサー財団の「マテリアル・サーキュラリティ・インジケータ」フレームワーク](#)から引用した具体的条件を満たす場合のみです。

1. (技術的能力と採算性の観点で)埋め立て以外の別の寿命終了時の選択肢が尽きていなければなりません。
2. そのマテリアルが生物資源由来でなければなりません。
3. その生物学的マテリアルは、持続可能な生産による原料に由来すること(すなわち、再生可能な範囲で生産されたこと)が明らかでなければなりません。
4. その生物学的マテリアルが技術的マテリアルによって汚染されていることはありません(それらの技術的マテリアルが明らかに不活性で毒性を有さない場合は除きます)。
5. エネルギー資源循環が最適化されなければなりません。また、そのエネルギーが有益に使用され、他の再生不能なエネルギーに取って代わらなければなりません。
6. エネルギー資源循環の副産物自体が生物学的に有益でなければなりません。また、送り込まれる生態系に有害であってはなりません。

混合廃棄物の埋め立てと焼却はリニア(直線型)とみなします。たとえ50%が生体物質で構成されていたとしても、循環型としての区分に関する上記の基準を満たしません。フローに関するデータが入手できず、かつ下流の追跡が行われていない場合、実際の資源循環は0%とみなされません。

フロー、特にバリューチェーンの上流または下流の多数の段階でモニタリングを行うことの難しさは分かっています。バリューチェーン内の協力が限られる限り、このデータを収集し、供給することの重要性をしっかりと伝えることはできません。こうした話し合いがまだ始まっていない場合には、話し合いを開始するための一貫したプロセスと根拠がCTIによって示されることが期待されます。

## 食品廃棄物

食料と飼料を除き、ほとんどの生物資源は、その栄養素が生物学的サイクルに安全に戻される限り循環型とみなされます。

食料の目的は人間と動物を育むことです。循環型として区分するためには生物学的サイクルに戻すだけでは不十分です。従って、摂取された食料のみを100%資源循環された(循環型)とみなしません。

生分解性、またはバイオ燃料／バイオガスによる食品廃棄物の資源循環化は50%のみ循環型とみなします。

(エネルギー資源循環があってもなくても)食品廃棄物の埋め立てと焼却は直線型とみなしません。



## カスケード

資源循環はマテリアルに単にセカンドライフを与える以上のものです。技術的サーキュラーフローの現行基準は、そのマテリアルが、(マテリアル、部品、製品などのいずれであるかを問わず)会社に入ってきたときと機能的に同等なインフローの状態を技術的に実現できることとなっています。この機能的同等性とは、当該企業または他社が、同じ目的または類似する目的でそのマテリアルを使用できることを意味します。

このフレームワークにおいては、焼却でエネルギーに転換される技術的フローはサーキュラー(循環型)ではありません。なぜなら、焼却後は同じ機能的同等性に戻らないからです。



### 例:プラスチック

小型のIT機器にある高グレードのプラスチックは同じ製品で再使用することはできませんが、コーヒーメーカー本体に再使用することは可能であり、リサイクルコンテンツとして何回もループできる場合、これは機能的に等価であるためサーキュラーとなります。

### 例:ゴム

遊び場のフロアタイルとして使われる粉砕タイヤは、新しい遊び場のフローリングまたは他のものとして再び利用できる場合、サーキュラー(循環型)とみなされます。

### コプロセッシング

コプロセッシングとは、単一の工業プロセスにおいて、残留廃棄物を鉱物資源の原料(マテリアルリサイクル)、および化石燃料を代替するエネルギー源として同時に使用することを指します。この場合、この残留廃棄物はサーキュラーインフローの条件を満たしますが、サーキュラー(循環型)となるアウトフローは、完全に資源循環され、機能的同等性を維持しながら別のプロセスで使用される部分のみです。その他のアウトフローは、技術的サイクルまたは焼却される混合廃棄物ストリームであって再使用ができないため、リニア(直線型)とみなされます。

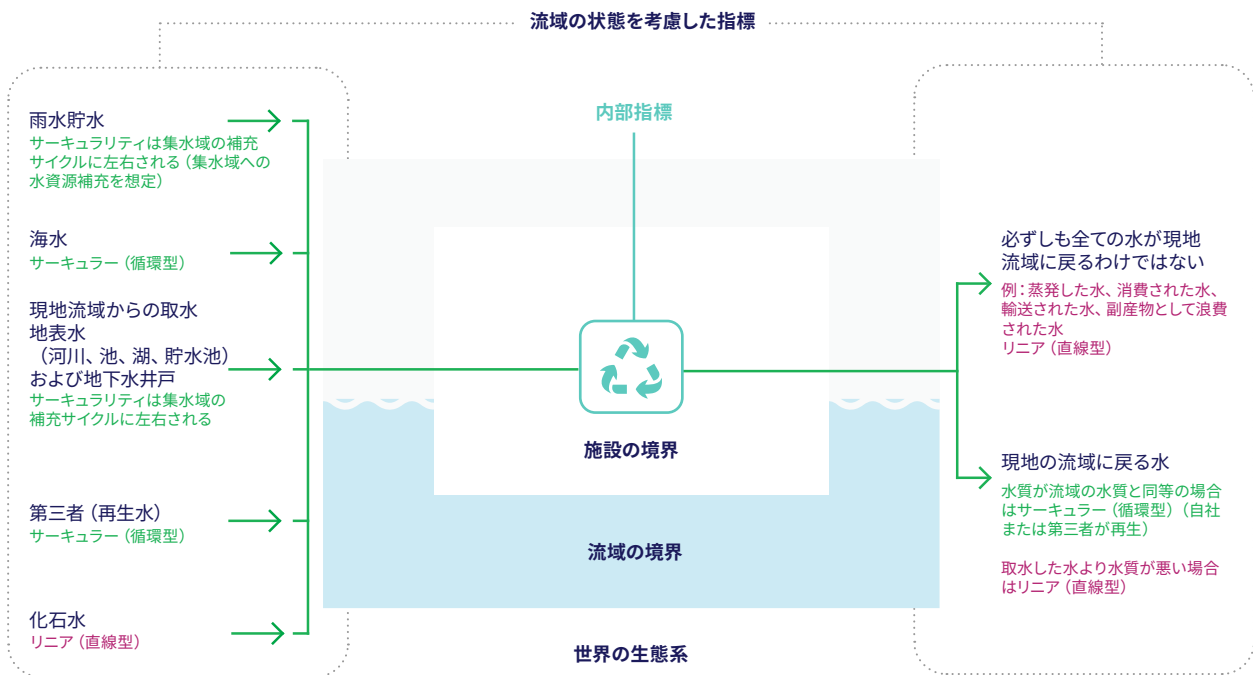
## %水のサーキュラリティ

水は有限で不可欠な資源です。責任を持って水を使用し、可能な限り循環の原則を適用することは極めて重要です。

水が他のマテリアルや資源と異なる点は、関係する生態系の大きさです。マテリアルはグローバルなシステムの中で循環可能ですが、水のサーキュラリティは、集水エリアまたは地元の流域に関して局地的に評価する必要があります。これにより、当該集水域の水供給に依存するその企業施設および周辺の全ステークホルダーの実際の水の可用性が判断できます。水のサーキュラリティの目的は、水需要を小さくし、全ての使用者と環境のための水資源量を保証することです。

下の図10は、流域の中で企業（施設）の境界がどのように位置するかを示したものです。

図10：水循環システムの図



### %水のサーキュラーインフロー

現地生態系の補充能力  
という観点で測定

調達された水は取水より速いスピードで補充されているか。

### オンサイト循環

社内での再使用とリサイクル

平均的な状態の水は施設全体を平均何回循環するか。

### %水のサーキュラーアウトフロー

現地の水生生態系への影響  
という観点で測定

水は、生態系が成長を続けられるように現地の流域に安全に戻されているか。

- サークュラー（循環型）
- 化石

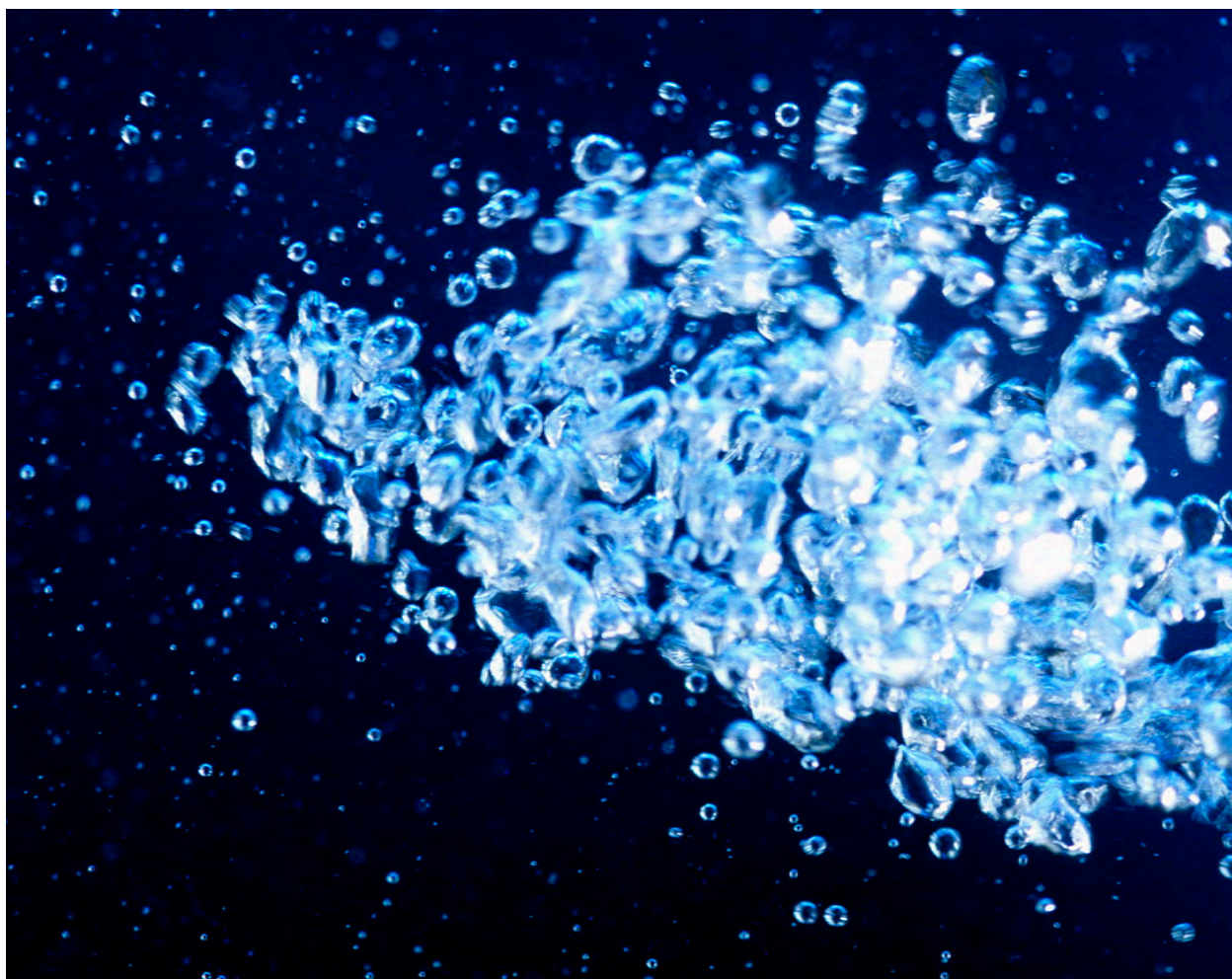


## 水のサーキュラリティの基本原則

水のサーキュラリティを評価するために、CTIは**流域の状態を考慮した2つの指標と一つの社内指標を設けました**。流域の状態を考慮した指標は必須ですが、社内指標は任意です。2種の指標は同じデータセットに基づきます。

### 流域の状態を考慮した指標

生産施設または拠点の水のサーキュラリティは%水のサーキュラーインフローと%水のサーキュラーアウトフローの平均値です(量は同じと想定します)。



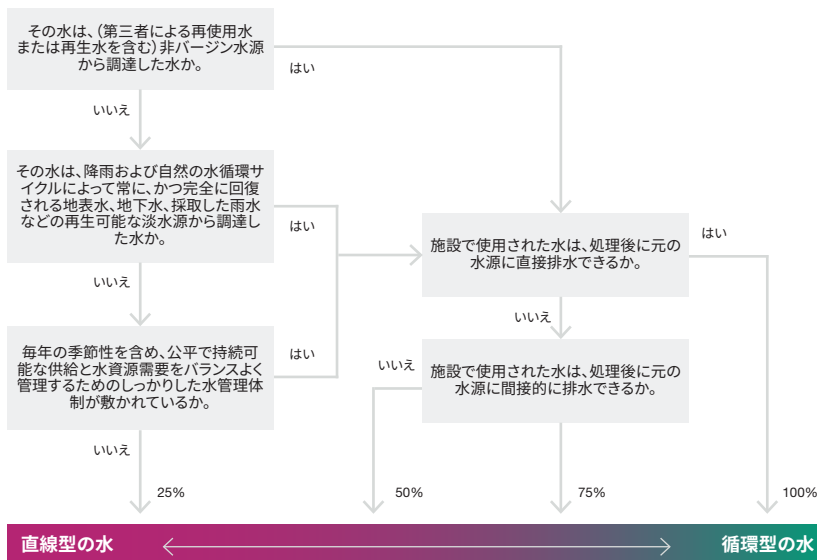


## %水のサーキュラーインフロー

この指標は、所定の時間枠の中での水の全インフローの総サーキュラリティを測定するものです。次のように算定します。

$$\frac{Q \text{ 循環型総取水量}}{Q \text{ 総取水量}} \times 100$$

下のディシジョンツリーを使って、水のインフローのサーキュラリティを測定します。



## %水のサーキュラーアウトフロー

この指標は、所定の時間枠の中での水の全アウトフローの総サーキュラリティを測定するものです。次のように算定します。

$$\frac{Q \text{ 循環型総排水量}}{Q \text{ 総取水量}} \times 100$$

水のサーキュラリティに関する基本原則に基づき、サーキュラーアウトフローには次の3つの基準が設けられています。

1. 他のサイトによって(オフサイトで)再生される場合、その水はサーキュラー(循環型)です。流域内の市町村への飲料水供給はこれに含まれます。
2. 環境用水、社会用水、農業用水または工業用水として直ちに使用可能な水質で現地の流域に戻される場合、その排水はサーキュラー(循環型)です。
3. 環境用水、社会用水、農業用水または工業用水として直ちに使用可能な水質で現地の流域に戻される場合、その生産水はサーキュラー(循環型)です。

### 水のサーキュラーインフローのディシジョンツリー

ディシジョンツリーは、インフローの取水先が循環型か直線型かを明確にする上で役立ちます。最終的に、より循環性の高いインフローを選択するための意思決定を後押しすることがディシジョンツリーの目的です。ディシジョンツリーを使用するにあたっては、水の取水源に関して現地の信頼できるデータを入手することが重要です。

### 水質

水質は、選択した物理的、化学的、生物学的特性に基づき、特定の用途に対する水の適合性を測る評価基準です。飲料水、灌漑用水、工業用水などさまざまな水の用途には、しかるべき当局(例えば、省庁)が定める特定の品質基準もしくはパラメータ、および(または)業界標準があるでしょう。

### 人間が管理する水と自然が操る水

原始的な方法で、水の循環サイクルを自然が操るサイクルと人間が管理するサイクルに分けることが可能です。ある流域の中で、自然の水循環サイクルは水を再び最適化し、再使用し、補充する働きをします。人間が管理する側では、私たちが取水、利用、再補充を通じて自然の水循環サイクルを変えてしまう場合、人間の行動が水のサーキュラリティに影響を与えます。

施設自体または第三者が排水に先立ち、必要な水処理を行うことが可能です。

### 施設内部指標

#### オンサイト循環

この指標は、その水がアウトフローとして施設を出る前に、企業がオンサイトで平均的な状態の水を使用した回数を表します。

次のように算定します。

$$\text{オンサイト循環 (再使用・リサイクル)} = \frac{Q \text{ 水使用量} - Q \text{ 総取水量}}{Q \text{ 総取水量}} \times 100$$

その施設が使用した水の総量は、施設の全プロセスで必要とされる全ての水 (例えば、洗浄水、冷却水、原料水、水道水など) の合計です。

#### エネルギーと栄養素の資源循環

水を排出する前に、水からエネルギーと栄養素 (またはそのいずれか) を資源循環できる場合があります。CTIはこれを循環型の実践方法として認めますが、水のサーキュラリティ指標には含めません。どちらのタイプの資源循環も、%再生可能エネルギーまたは%サーキュラーアウトフローに寄与すると考えられます。これらの項目では、それぞれのデータセットにおける値の扱い方を説明しています。

水のサーキュラリティ、ウォーター stewardship と持続可能性  
水資源管理のさまざまな側面と影響 (すなわち、持続可能性、stewardship、サーキュラリティ) の測定を目的とするアプローチやイニシアチブがいくつかあります。これらを同一ではないが互いに関連する側面として捉えるような骨組みを作ることが重要です。例えば、サーキュラリティがウォーター stewardship の目標実現を後押しし、その結果、より持続可能な水の利用につながる可能性はありますが、サーキュラリティは持続可能な水の利用と同じではありません。この他にも、これらの側面の測定を目的とする方法が策定されたり、開発が進められたりしています。持続可能性に関しては、「Science Based Targets Network」が、水を含めた自然のための科学的根拠に基づく目標を適用するための指針を策定中です。また、ウォーター stewardship に関しては、世界資源研究所 (WRI) などの機関が、ウォーター stewardship 活動を導入し、評価する方法を発表しました。「Volumetric Water Benefit」と呼ばれる方法です。



## %再生可能エネルギー

サーキュラーエコノミーにおいては、エネルギー生産は再生可能エネルギーに依存し、化石燃料から脱却します。

その算定は複雑で、結果の精度が下がるおそれがあるため、CTIでは事業運営に使用される再生可能エネルギーを分けて測定します。

%再生可能エネルギーの公式は以下の通りです。

### %再生可能エネルギー

$$\frac{\text{再生可能エネルギー消費量(年間)}}{\text{エネルギー合計(年間消費)}} \times 100$$

大半の企業は再生可能エネルギー消費量の測定と報告にあたり、世界的に認められ、一般に採用されているプロトコルをすでに使用しています。

CTIはWBCSDのアプローチに沿って、企業が現行の方針と手順を使用することを認めていますので、既存のデータセットを再使用することが可能です。

再生可能エネルギーの定義についての指針が必要な場合は、[国際再生可能エネルギー機関 \(IRENA\)](#) が公表しているエネルギー源を参照してください。<sup>9</sup>

- 太陽光エネルギー
- 風力エネルギー
- 水力エネルギー
- 地熱エネルギー
- 海洋(潮力)エネルギー
- バイオエネルギー

測定では、エネルギーの内容を示し、企業に入り込む全てのエネルギー担体(ガス、電気、燃料を含むが、これらに限定されない)を含みます。

CTIの解釈上、企業がこの指針で100%を超える再生可能エネルギー率を出すことはありません。よって、ある企業が使用量を上回る再生可能エネルギーをオンサイトで生産し、電力網(電力会社)に売電しているとしても、再生可能エネルギー指標の上限は100%にする必要があります。この指標の目的は、再生可能エネルギー消費へのシフトを促すという比較的単純な事柄に常に重点が置かれることにあります。

### マテリアルフローとエネルギー生成

エネルギー生成のためのインフローは、再生可能または非バージンである場合にサーキュラーインフローとして区分します。

燃料として使用され焼却される、または燃料として使用されるか、もしくは焼却されるアウトフローは必ずリニア(直線型)として区分します。

### エネルギー担体

エネルギー担体が物理的なマテリアルフローとして社内に入ってくる場合は、それらのエネルギー担体を自社のインフロー計算の中で考えます。これらのエネルギー担体が非バージンまたは再生可能である場合は、サーキュラーインフローとみなしません。逆に、エネルギーの一部として社内に入ってくるエネルギー(すなわち、電力網から供給されるプロセス用電力)は、%再生可能エネルギーの計算の中で考えます。



## ループ最適化

### クリティカルマテリアル

この指標では、重要（クリティカル）な素材と重要でない素材を最初に区別することによって、リスクにさらされているインフローの割合を初見で捉えることができます。

最初のステップは、インフローの中で、総インフローのうちどれだけの質量がクリティカルかを明らかにすることです。クリティカルマテリアルは比較的近い将来に稀少化しやすく、機能を損なうことなく他のマテリアルで代替することが困難です。いくつかの機関が重要な原材料を特定しています。例えば、EUは[30の原材料を重要な素材](#)としてリストアップしています<sup>10</sup>。さらに米国は、米国の国家安全保障と経済にとって重要と考えられる[35種の鉱産物](#)のリストを作成しました。<sup>11</sup>

これらのリストには、人権侵害の観点からなど、問題のあるサプライチェーンに関する基準は含まれていません。今後は、人的資本および環境資本に関係したサプライチェーンの課題を含め、その他のデータソースが追加される可能性があります。

クリティカルまたは欠乏する素材の類似したリストを作成中またはすでに発表している当局が他にもあるかもしれません。地域リストは多少異なることがあるかもしれませんが、任意のリストに表示される素材については再検討するのが当然といえます。

### クリティカルマテリアル

（例えば、エレクトロニクス部門など）製品が非常に複雑な産業にとって、この情報の入手は困難かもしれません。さらに、クリティカルマテリアルは、バリューチェーンを介して移動するコンポーネント内に極めて少量存在することがあります。

企業は、これらのいずれかの素材への依存に関連してさらされるリスクを評価するか否かを決定できます。このレベルでのサプライチェーンの透明性を得るための取り組みは、かなり大掛かりなものとなりえます。一方で、これに関わるリスクは検討するに値します。

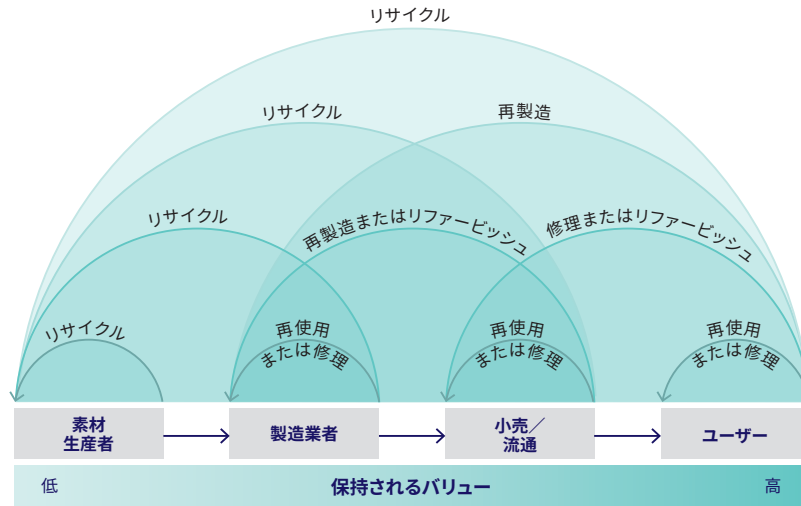
### %クリティカルマテリアル

$$\frac{\text{クリティカルとして定義されるインフロー}}{\text{リニアインフローの質量の合計}} \times 100\%$$

## 資源循環タイプ

「ループ化」モジュールと%サーキュラリティでは、ダウンサイクリングとエネルギー資源循環を除いた場合、技術的サイクルの中で移動するフローの資源循環タイプに関する評点に変わりはありません。各戦略はバリューチェーンの中のどこかのタイミング、どこかの場所で発動する必要があるため、このような捉え方が必要です。

図11: 保持される価値



例えば、製品を永遠に資源循環し続けることは不可能であり、ある時点で素材のリサイクルが必要になるでしょう。「ループ最適化」モジュールでは、自社の能力の範囲で、より高い価値を保持するための戦略を%資源循環タイプで詳しく探ることができます。図11に示すように、一般に資源循環ループが小さいほど必要なエネルギーや処理は少なくなります。また、素材/製品資源循環の形態が効率的になり、保持される価値が大きくなります。例えば、製品のリサイクルよりも修理では、要するロジスティックスや復元が少なく済み、より多くの製品価値が保たれます。

一般的に、資源循環ループの最小化を目指すことが企業にとっての最高の利益になります。

CTIオンラインツールは、アウトフローレベルでの任意のデータ入力を取り入れています。資源循環された製品、副産物、廃棄物ストリームなどに用いられる資源循環のタイプをここで詳しく記入します。フィードバックでは、再使用/修理、リファービッシュ、再製造、リサイクル、または生分解された資源循環済み素材の割合の内訳が示されます。

## 生物的サイクルのカスケード階層

CTIは、技術的サイクルと生物的サイクルの両方で各種の資源循環を識別します。図12は、生物的サイクルに戻る生分解可能な製品、副産物または廃棄物ストリームの一般的なカスケード階層を資源循環化レベルに従って示したものです。

この階層では、生物的サイクル(エレン・マッカーサー財団(EMF)のバタフライダイアグラムの左側)のみを考えます。一番上の欄は技術的サイクルによる資源循環をまとめたものですが、図12の戦略のいずれかを伴う可能性があります。

全てのループは同等にサーキュラー(循環型)  
 一般にループが小さい方が望ましいのですが、CTIではどのタイプの資源循環も同等にサーキュラーとされます。  
 従って、ループ化の算定では、全ての資源循環タイプがその企業のサーキュラリティパフォーマンスに等しく貢献します。このことは資源循環タイプに変化があっても、%サーキュラーアウトフローが変わることはないことを意味します。ただし、サーキュラー型資源生産性指標はこれを捉えます。

図12: 生物的サイクルの資源循環階層

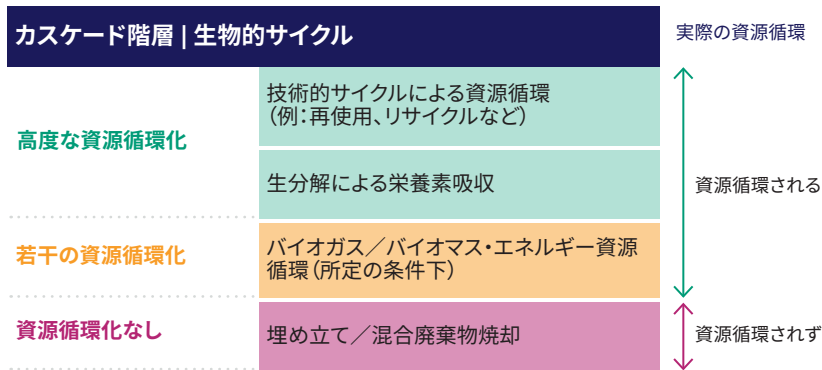


図13: 食品・食品廃棄物のカスケード階層



生物的サイクルによる資源循環に適した生分解可能な製品、副産物または廃棄物ストリームのカスケードを見ると、取り組み方の修正を要するストリームが一つあります。それは食品です。食品の生育・生産は摂取という目的のためだけに行われます。ですから、摂取ではなく生分解による資源循環を同等にサーキュラーな(循環型)資源循環モデルとみなすわけにはいきません。具体的には食品の場合、資源循環化階層は図13のようになります。

この階層は食品の可食部分のみを対象としています。主たる生物的サイクルのカスケード階層には、卵殻、オレンジの皮、コーヒーの出し殻など食用に適さない食品廃棄物ストリームが含まれます。

ループ最適化の改善機会を評価するかどうかの判断は各企業に委ねられます。部分的資源循環から高度な資源循環または全部使用へと食品廃棄物回収が改善されると、%実際の資源循環のスコアが高くなり、結果として%サーキュラーアウトフローも上昇します。それは技術的サイクルの資源循環戦略とは異なるからです。技術的サイクルでは、全ての資源循環戦略がバリューチェーンの中のどこかのタイミング、どこかの場所で発動することが前提となっています。しかし、生物的サイクルの食用ストリームは違います。例えば、摂取した食品はもはや(食品として)生分解可能ではありません。従って、生物学的カスケードの場合は、循環型としての性質が異なる活動の明確な階層が存在します。



## ループ評価

このモジュールは企業が依存する素材の単位当たりの収益を生み出すのにどの程度効果を上げているかについての知見を得るのに役立ちます。

## サーキュラー型資源の生産性

このモジュールで立ち上げられている最初の指標は、サーキュラー型資源生産性であり、これは企業がリニアインフローの単位当たりに生成する価値を表します。結果は企業が長年にわたりモニターできる価値になります。算定方法は以下の通りです。

### サーキュラー型資源生産性

$$\frac{\text{収益}}{\text{リニアインフローの質量の合計}}$$

この指標における増加は、(リニア)資源への依存性から財務上の成長をうまく切り離していることを示します。

## CTI収益指標

CTI v2.0に新たに加わったのがCTI収益指標です。この指標は、企業が使用する資源のループ化に関するパフォーマンスと、それが企業の業績に与える影響の間にある客観的な定量的関係を示します。

ある製品のCTI収益指標は次のようにして求めます。

### CTI収益指標 (製品)

$$\frac{\% \text{サーキュラーインフロー} + \% \text{サーキュラーアウトフロー}}{2} \times \text{収益}$$

ある事業部門または企業のCTI収益指標を求めるときは、算出した全ての製品CTI収益指標を合計します。

### CTI収益指標 (会社全体)

$$\sum \begin{matrix} \text{CTI 収益指標 A} \\ + \text{CTI 収益指標 B} \\ + \text{CTI 収益指標 C} + \dots \end{matrix}$$

この計算を行うことで、企業は(1)より循環性の高い新製品を開発し、(2)既存製品ポートフォリオのサーキュラリティを改善し、(3)ポートフォリオの中でより循環性の高い製品の売上を伸ばすことによって、製品ポートフォリオの方向付けを通じてより多くの収益をサーキュラー(循環型)と位置付けることができます。

### 通貨の選択

- 企業は財務報告で使用する通貨と同じ通貨を使用すべきです。
- 企業が複数の通貨を使用している場合は、CTI評価の適用範囲と目的を考え、対象となる意思決定者への情報提供に最も適した通貨を判断してください。

### 例: CTI収益指標

- 循環率25% (サーキュラーインフローとサーキュラーアウトフローの加重平均) と評価され、100万米ドルの売上を創出する製品は、会社のCTI総収益に25万米ドル貢献します。

企業は下の表のようにCTI収益指標を表形式でインプットすべきです。これにより、自社の収益がサーキュラーパフォーマンスの階層のどこに該当するかを観察できます（例えば、十分位）。この表で企業の収益の重心が低いほど、ポートフォリオの直線型経済モデルへの依存度が低いということです。パフォーマンス階層の0%と1~10%が（概ね）直線型で、CTI収益指標への加算額があまり多くないことに注意してください。企業は、時間の経過とともに自社の製品ポートフォリオを表の下の方に移動させることを最終目標とすべきです。

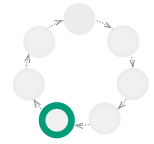
この方法で循環型収益を計算することによって、CTI収益指標は、

- 物質フローとサーキュラーパフォーマンスを直接結び付けます。
- 企業が、新たな継続的改善機会を発見し、数値目標を設定することを可能にします（すなわち、循環率60%の製品には、上の階層に上がる余地がまだ残されています）。
- 経営陣と投資家との一貫したコミュニケーションを可能にします。
- 「ループ化」指標の結果を利用することで余計な労力を最小限に抑えます。
- 「循環型製品」を定義するにあたって主観的な認定を防ぎます。
- サーキュラリティの三本柱（サーキュラーインフロー、資源循環可能性（設計）、実際の資源循環）を通じてより詳細な情報を提供することにより、二者択一の認定形式（はい/いいえ）のサーキュラリティ指標を補完します。
- 企業のポートフォリオが持つ直線型リスクと循環型機会について、より詳細な知見を提供します。
- CTIオンラインツールを使用する場合は、サーキュラーインフロー指標とサーキュラーアウトフロー指標で集めたデータを製品（グループ）収益で補完した数値に基づいて、この指標が自動的に算定されます。

表1: CTI収益指標

A社 - CTI収益指標	%サーキュラリティ (ループ化指標)	収益 (\$)	加重平均収益 (%サーキュラリティ x 収益)
	0%	\$400M	\$0M
	1-10%	\$150M	\$7.5M
	11-20%	\$200M	\$30M
	21-30%	\$150M	\$37.5M
	31-40%	\$50M	\$17.5M
	41-50%	\$30M	\$13.5M
	51-60%	\$20M	\$11M
	61-70%	-	-
	71-80%	-	-
	81-90%	-	-
	91-100%	-	-
総収益	\$ 1B		
CTI収益指標		\$117M (11.7%)	

# ⑤ 分析 結果の解釈



このセクションでは意思決定に向けた結果の解釈に焦点を当てます。プロセスのこの部分で、企業は関係する意思決定者を関与させるべきです。

CTI算定の結果は、循環イニシアチブの特定、優先順位付け、実施の定量的基盤を提供します。

## 現在のパフォーマンスと長期にわたるパフォーマンス

### 現在のパフォーマンス

私たちは、さまざまな企業、産業、バリューチェーンで幅広く適用できるようにCTIを開発しました。パフォーマンスは企業の特徴により大きく異なる傾向があるため、モデルでは何が「悪く」または「良い」パフォーマンスであるかを主観的に判断することはありません。CTIは、未だにリニア（直線型）とみなされている事業の割合を検証することにより、自社の改善ポテンシャルを検討する力を企業に与えます。

基本指標の分析は、サーキュラリティのレベルを高めるために何が必要かを知ることにつながります。

### 長期パフォーマンス

最も貴重な知見は、長期的なパフォーマンスを追跡することで得られるかもしれませんが。企業は自社が設定した期限付き目標、目的またはターゲットと現在の進捗状況を比較することができます。異なる方法ではありますが、企業がサーキュラリティの増減をグローバルレベルのパフォーマンスの変動（例えば、Circle Economyの「サーキュラリティ・ギャップ・レポート（CGR）」<sup>12</sup>）と比較したり、（政府機関のデータまたは企業もしくは業界団体の集合データを介して）業界レベルのパフォーマンスの変動と比較したりすることも可能です。パフォーマンスが期待に沿わない場合、企業は結果に影響を与える基本指標とパラメータをさらに分析することができます。

### サーキュラリティの測定

WBCSDは、世界経済がどの程度循環型かを表す際の基準として、Circle Economyの「サーキュラリティ・ギャップ・レポート（CGR）」をしばしば引用しますが、それぞれの目的が異なるため、CTIとCGRの測定方法には大きな相違点があります。このため、結果を直接比較することは困難です。

WBCSDは、企業に情報を提供し、循環型への移行を実現させるためにCTIを開発しましたが、Circle Economyは（例えば、国、地域またはグローバルレベルで）マクロ経済的理解を確立するためにCGRを考案しました。2つの測定方法の具体的な違いとしては次の点が挙げられます。

- CGRには、特定の経済システムまたはバリューチェーン全体のマテリアルフットプリントが含まれます。CTIは、単一企業のインフローとアウトフローに焦点を絞っています。
- CTIは可能な資源循環と実際の資源循環を区別しますが、CGRは実際の資源循環のみを観察します。
- CGRは、あるストリームが循環型の原料に由来し、かつ再び完全に資源循環される場合に限り、そのストリームをサーキュラーとみなしません。CTIではインフローとアウトフローを分け、それぞれが合計スコアの約50%ずつを占めます。
- CGRには、エネルギー使用のために消費された資源が含まれます。CTIはこれらの資源を、再生可能エネルギー使用に関する別の指標で捉えます。

WBCSDとCircle Economyは現在、2つの測定基準を揃え、双方のアプローチの利点をユーザーに提供するための選択肢を探っています。



## 基本指標の分析： サーキュラーインフローとサーキュラーアウトフロー

結果は多くの場合、企業に出入りする広範囲のフローに基づいています。これは質量およびサーキュラリティパラメータにより大きく異なることがあります。

### フローの質量

質量ベースの指標はマテリアルフローが重いほど、比率への貢献度が大きくなります。これに関係する一つの評価方法として、質量が最大のものから最小のものまで、リニア(直線型)フローをリストアップする方法があります。より大きな質量ストリームに関するループ化はサーキュラリティレベルにより大きく貢献します。しかし、結果として、重要性や優先順位といった他のパラメータを見落とすおそれがあります。

### フローのサーキュラリティ

#### 技術的サイクルに関するガイダンス

技術的分野でのインフローのサーキュラリティは、非バージンとされるフローの特性によって左右されます。改善の機会は、リニア(直線型)フローの特性を評価し、再生可能な代替原料(生物的サイクルへの移行)、または非バージンの代替原料を検討することによってもたらされます。

アウトフローのサーキュラリティには2つのコンポーネントが含まれます。すなわち、資源循環可能性と実際の資源循環です。資源循環可能性を改善するには、分析は設計を最適化する機会に焦点を当てます。例えばモジュラー設計、分解用の設計、修理可能性、単一素材などの使用による高度なリサイクルなどが挙げられます。

実際の資源循環を改善するにはさまざまなアクションが必要とされます。例えば、製品のサービス化や買い戻し/引き取り制度などの新しいビジネスモデルの採用は、実際の資源循環率を著しく高める可能性があります。別の選択肢は、サーキュラリティを推進するバリューチェーンパートナーと協力することです。これにより、バリューチェーン下流への物質フローにより明確さがもたらされ、また共有される価値提案の策定能力が高まります。

## 生物学的サイクルのためのガイダンス

バイオベースのフローは定義上サーキュラー（循環型）ではありません。バイオベースの素材は少なくとも再生可能であること、望ましくはリジェネレーションが可能であることが必要です。バイオベースのインフローは、採取後に自然な成長と補充が起きる速さで、持続可能な方法によって生育され、収穫される場合にサーキュラーとみなされ、再生可能として区分されます。従って、生物学的サイクルにおけるフローのサーキュラリティは、ストリーム管理の特性に左右されます。すなわち、ストリームが最小限持続可能な方法で管理されていない場合は、そのストリームを再生不能として区分します。従って、バイオベースのストリームの場合、サーキュラーインフローを増やすための改善機会は、例えば認証された原料を使用することにより、持続可能な方法で育てられた素材の割合を増やすことです。

生物学的サイクルのアウトフローのサーキュラリティには、技術的サイクルと同じ2つのコンポーネントが含まれます。すなわち、資源循環可能性と実際の資源循環です。生物学的サイクルでは生分解性と毒性によって回収可能性が決まります（経済協力開発機構（OECD）の生分解性試験基準を参照してください）。従って、改善の可能性は、バイオベースの製品を生分解可能にし、基準レベル以上の制限物質を含まないようにすることにあります。ハイブリッド型（バイオベースのフローと技術的フローの両方を含む製品）の場合は、設計を通じて資源循環可能性を高めることが可能です。すなわち、設計によりバイオベースのコンポーネントと技術的コンポーネントを分離できるようにすべきです。

生物学的サイクルの中を移動する製品、副産物、廃棄物ストリームの実際の資源循環の改善は、資源循環化の種類に左右されます（47ページのバイオエコノミー階層を参照してください）。食用ではないバイオベースのフローの場合、企業は技術的サイクル戦略による資源循環化を検討し、関連する新しいビジネスモデルを探ることが可能です。バイオベースの素材でこれらの戦略が持続するとは考えにくい（すなわち、リサイクルループが繰り返されるごとに紙繊維の長さや強度が失われ、リサイクルは最大で7回程度とされるため）、フローは生物圏での資源循環（すなわち、生分解および栄養素資源循環またはそのいずれかによる）にも対応する必要があります。食用のフローの場合、資源循環されたとみなされるためには、実際の有機体がこれを摂取することが鍵となります。そこで、サーキュラーアウトフローを増やすために、バリューチェーンの中と最終消費者レベルで食品廃棄物と食品ロスを防ぎます。完全にサーキュラー（循環型）とは言えませんが、食用フローの生分解は資源循環スコアが50%です（非食用の生分解可能ストリームでは生分解の資源循環スコアは100%）。従って、埋め立てよりは若干優れた代替策と言えます。

## 生分解性に関する重要な考慮事項

生分解可能な製品が必ずしも全てバイオベースまたは再生可能資源由来とは限りません。一部の化石ベースポリマーは完全に生分解可能です（例えば、ポリブチレンアジペートテレフタレート（PBAT）またはポリカプロラクタム（PCL））。

バイオベースの製品が必ずしも全て生分解可能とは限りません。生分解性は一部のバイオベース製品にもともと備わっている特性ですが、それらの製品の多くは耐久性があり、生分解しません。崩壊は物理的プロセスですが、生分解は化学的プロセスです。製品が完全に分解するためには、この両方が起きなければなりません。

生分解は、温度、時間、バクテリアと菌類の存在といった要因に大きく依存します。高温と管理された条件下で、都市ごみ堆肥化はプラスチックが分解するための最も理想的な環境になります。

## 出所:

この内容は、ホライズン2020が資金を拠出するEUのプロジェクト「InnProBio」の「[Biodegradability, Exposing some Myths and Facts](#)（生分解性：虚構と真実を明らかにする）」から引用しました。

## 技術的サイクルに関するガイダンス

### 非バージンインフロー

建設会社は、バージンスチールビームを再使用のビームまたはリサイクルのスチールに取り替えることで、サーキュラリティレベルを高めることができます。

### 再生可能なインフロー

化粧品会社は、バージン合成成分を再生可能成分に切り替えることによってサーキュラリティレベルを高めることができます。

### 資源循環可能性

ICT企業は製品の設計を変えることで、分解可能にし、修理、再使用、リファービッシュを可能にします。

### 実際の資源循環 - ビジネスモデル

ICT会社は使用した分だけ支払うビジネスモデルに変更することで、資源循環率と再使用率を高めることができます。

### 実際の資源循環 - 連携

電子機器製造業者は小売業者と連携し、引き取り制度により消費者を刺激し使用済み機器を収集することで、部品と素材の資源循環を確実なものにできます。

## 生物的サイクルのためのガイダンス

### 非バージンインフロー

製紙会社は、紙とカードボックスの再生材含有量を増やすことができます。

### 再生可能なインフロー

家具メーカーは、再生可能性を保証し、成長と補充のサイクルに合わせるために、森林管理協議会 (FSC) が認証した木材のみを使用することができます。

### 資源循環可能性

化粧品会社は、ハイブリッド製品の生物的ストリームと技術的ストリームを分けることにより、バイオベースのストリームの生分解性を保証するために、製品のデザインを変更することができます。

### 実際の資源循環

香料会社は、資源循環率が高いタイプに変更し、食品業界のインプットとして使用することにより、残留ストリームを完全に資源循環できるようにすることができます。

スーパーマーケットは、食品廃棄物を作らず、資源循環率を高めるために、賞味期限が迫った製品を食品バンクに提供することができます。



## 水とエネルギー

### 水のサーキュラリティ

企業は次の2つの方法で水のサーキュラリティを改善できます。

1. 水のリニアインフローとリニアアウトフローを減らすことに重点を置きながら需要を上手に調整し、全体の水使用量を削減する。
2. 水のリニアインフローとリニアアウトフローを、水のサーキュラーインフローとサーキュラーアウトフローに切り替える。

現地の水需要は、現地の全ステークホルダー（他社、市町村、生態系自体）の需要を合算したものです。従って、集水域規模で改善の機会を検討すること、また、改善の機会を検討するときは大きな視野を持つことが重要です。企業は集水域の他のステークホルダーと関わりを持ち、考えられる循環型の解決策について協力しなければなりません。

### 再生可能エネルギー

この指標は使用される再生可能エネルギーの割合を示します。理論的には、完全なサーキュラーエコノミーとは再生可能物の上に成り立っており、そのため目標は100%の達成となります。改善機会には以下が挙げられます。

- 全体的なエネルギー消費の減少（使用される再生可能エネルギー率の増大との相対）または
- 化石燃料を再生可能な代替エネルギーに取り替える

### ループ最適化指標

#### %クリティカルマテリアル

この指標結果は、どの程度企業がクリティカル（緊要）と特定される素材に依存しているかを示します。たとえ、クリティカルマテリアルの割合が小さくてもさらに分析を進め、次の事項を把握することが適切かもしれません。

- クリティカルマテリアルの多様性
- クリティカルマテリアルの代替可能性
- クリティカルマテリアルの絶対使用
- クリティカルマテリアルに依存する収益（リスクのある収益）

#### クリティカルマテリアルの特徴

企業のインフローには複数のクリティカルマテリアルがある場合があります。こうした素材の性質を理解することが重要です。緊要として定義される全てのマテリアルが必ずしも、緊要性において同じスコアであるわけではありません。これは供給リスクと地域の経済重要度の組み合わせです。規模に基づいたクリティカルマテリアルフロー、フローに依存する収益、素材の相対的緊要性を評価することは関連性がある場合があります。

#### 例：水のサーキュラリティ

##### 水のサーキュラーインフローを増やす

水資源が乏しい場所にある企業は、他社に接触する機会を探り、他の水利用者から直接第三者の水を調達する方法を検討することができます。

##### 水のサーキュラーアウトフローを増やす

水のアウトフローのサーキュラリティが低い場合は、企業が取れる簡単な手段として、現地の水質規制に従って全ての排水を処理する方法、または確実に同じ基準を守る第三者（水処理設備）に外部委託する方法があります。

##### 社内循環を増やす

自社のプロセスで生じる水のフローを再使用またはリサイクルする機会を検討することによって、社内循環を増やすと同時に需要管理を強化し、水のリニアインフローとアウトフローを生じにくくします。

##### クリティカルマテリアルの性質

- どのような素材であるか？
- 素材のそれぞれのクリティカルリティ（緊要度）とはどのようなものか？
- 素材はバーজনか、または二次的なものであるか？

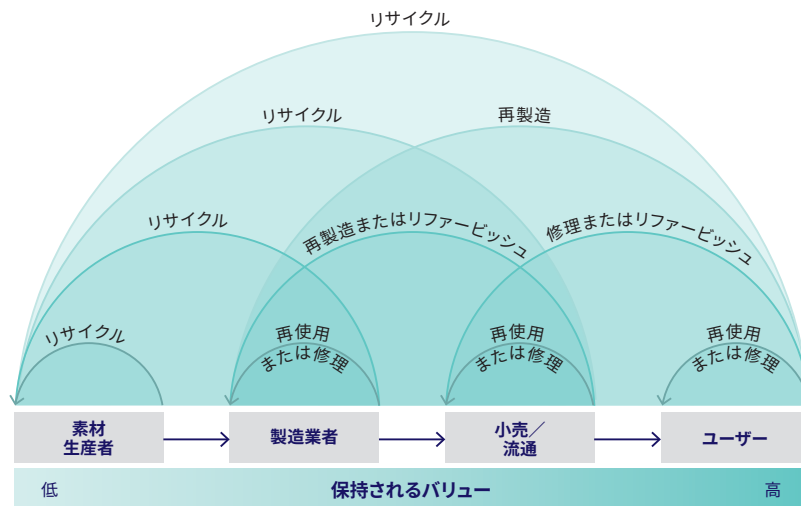
### クリティカルマテリアルの代替可能性

クリティカルマテリアルを同等または類似の機能性をもった、他の非クリティカルマテリアルに取り替えることが可能な場合、企業は一部そのリスクを緩和することができます。そのため、代替物が利用可能であるかを評価することには関連性があります。

### クリティカルマテリアルの絶対使用

クリティカルマテリアルの相対使用(率)が低い場合でも、クリティカルマテリアルの絶対量またはコストが絶対的希少性、価格上昇、価格変動が事業の存続に影響を与えるポイントに達することがあります。そのため、クリティカルマテリアルの絶対使用をモニターすることにもまた関連性があります。

図14：資源循環タイプ



### 資源循環タイプ

#### 技術的サイクルに関するガイダンス

技術的サイクルでは、全ての資源循環戦略がバリューチェーンの中のどこかのタイミング、どこかの場所で発動することが前提です。個々の企業に別の資源循環タイプへの移行の機会があるかどうかは、概してその企業のタイプとバリューチェーンにおけるポジションによって決まりますが、企業はより高い価値を維持する戦略(すなわち、リサイクルよりも再使用)への移行により、アウトフローが可能な限り最大の価値を保持するよう図るために、機会の評価を行うことができます。ある企業は、製品のサービス化や販売・買い取りなどの斬新なビジネスモデル、さらにはより高い価値を保持する戦略へのシフトを可能にするための新たなバリューチェーン連携といったさほど先鋭的ではない変更の効果进行调查しています。

#### 生物的サイクルのためのガイダンス

技術的サイクルとは逆に、全ての資源循環戦略がバリューチェーンの中のどこかのタイミング、どこかの場所で発動するという前提は生物的サイクルにはあてはまりません。従って、企業各社は高度な資源循環化を可能にするために階層を上っていくことを取り組みの動機とすべきです。バリューチェーンのパートナー企業と協力して別の資源循環タイプを探したり、アウトフローの資源循環化を高めるために自社で調整した物流を立ち上げたりしてもよいでしょう。

## ループ評価指標

### サーキュラー型資源の生産性

この指標は質量の単位当たりの金銭的価値を表します。この絶対的価値は企業によって大きく異なります。これを長期的なパフォーマンスの比較に使用することが最善です。サーキュラー型資源生産性の上昇は、素材の消費と財務業績の伸びが切り離されていることの証明です。

さらに、サーキュラー型資源生産性の増減を外部と比較することには意味があります。例えば、十分に匿名化され、集計化されたデータが利用可能な場合、得られる知見として、企業が1年間にサーキュラー型資源の生産性を2%増加し、一方、同部門では5%増加している場合、当該企業には捉えるべき追加の機会があることが示されている可能性があります。

企業は、為替レート、在庫、CTI収益指標といったさまざまな要素が、長期的にサーキュラー型資源生産性にどのような影響を与えるかを検討し、それらの要素に対する算定結果の感度を測定すべきです。

循環資源の生産性の算定は、国内資源消費量(DMC)／国内総生産(GDP)とは同じでないものの、両方の指標において切り離しが示されています。そのため、循環資源の生産性における変化を全国または部門レベルでのDMC／GDPの増加と比較することは、興味深いものであるかもしれません。

### CTI収益指標

この指標は企業にいくつかの知見を示します。

- その企業の総収益の何パーセントがサーキュラリティによってもたらされているか
- 循環性の高い製品によってもたらされるその企業の収益とサーキュラリティの低い製品によってもたらされる収益の割合はどのようになっているか
- 「ループ化」のパフォーマンス階層において、その企業の製品ポートフォリオの内訳はどのようになっているか。製品のサーキュラリティまたは売上に関する改善努力の焦点をどこに置きたいかを明確にする。

この最後の点については、下の表に会社全体または事業部門の製品ポートフォリオを記入すると、これらの知見を明らかにする上で役立つでしょう。分析の段階で、企業は以下のことを行うことによってポートフォリオを方向付けする機会を活用できます。

- 新しい循環型製品(グループ)を開発する
- 既存製品のサーキュラリティを高める、かつ(または)
- 循環性の低い製品よりも循環性の高い製品の売上を伸ばす

この作業を行う過程で、企業は全体のサーキュラリティスコア(質量ベースの%サーキュラーインフローと%サーキュラーアウトフロー)が、会社の総収益のうちCTI収益指標でサーキュラー(循環型)と認定されたパーセンテージと異なることに気づくかもしれません。



総収益のパーセンテージで表された自社のCTI収益指標が、(質量ベースの)サーキュラリティ率より高いことを発見した場合、これはその企業が、サーキュラリティの高い製品またはサービスから得ている収益が偏って大きいことを意味すると考えられます。

%CTI収益／総収益が%サーキュラリティより低い場合、その企業はポートフォリオの中の直線型製品に依存して収益の大半を生み出していると思われる。

この点をさらに深く分析してみましょう。企業は下の表2を使って、自社の収益がサーキュラリティの十分位のどこに位置するか(例えば、0%、1-10%など)を見ることができます。これは、その企業の収益がどの程度リニア(直線型)か、サーキュラー(循環型)かを示します。企業は次にこの表を使い、製品ポートフォリオを改善してよりサーキュラーになるための目標を設定することができます。

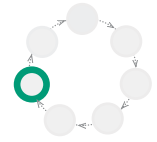
表2:CTI収益指標

A社 - CTI収益指標	%サーキュラリティ (ルーパ化指標)	収益 (\$)	加重平均収益 (%サーキュラリティ x 収益)
	0%	\$400M	\$0M
	1-10%	\$150M	\$7.5M
	11-20%	\$200M	\$30M
	21-30%	\$150M	\$37.5M
	31-40%	\$50M	\$17.5M
	41-50%	\$30M	\$13.5M
	51-60%	\$20M	\$11M
	61-70%	-	-
	71-80%	-	-
	81-90%	-	-
91-100%	-	-	
総収益		\$ 1B	
CTI収益指標			\$117M (11.7%)

(製品グループ内に十分なバリエーションがある場合は)製品グループレベルで、またはそれより上のレベル(事業部門や会社全体のポートフォリオなど)でこの分析を行うことができます。この表をさらに掘り下げ、横に並べてよりの確な知見を得るために、最小管理単位(SKU)や全製品ポートフォリオに占める割合についての欄を追加したいと考える企業もあるかもしれません。そうすることによって、企業は自社の収益が%サーキュラリティパフォーマンス階層のどこに該当するか、多くの製品がどこに属するかを知ることができます。

企業は、この表の所見をヒストグラム、棒グラフ、棒グラフと折れ線グラフの組み合わせなどのグラフ形式で表すべきです。

# ⑥ 優先順位付け 機会の特定



サーキュラーパフォーマンスについて集められた知見は、改善の可能性が最も大きいのはどのフローかを示します。しかし、この情報を使用して意思決定と優先順位付けを行うには、循環パフォーマンスがリニアリスクとどのように関係するかを企業が理解していることをお勧めします。会社のリスクへのエクスポージャーを評価し、その後ビジネスケースを介した機会を評価することで、企業は行動の優先付けを開始することができます。本項については、[WBCSDの2018年リニアリスク・レポート](#)<sup>13</sup>を参照してください。循環型のリスクと機会についての説明があります。

## リニアリスクとサーキュラー機会の特定

評価で用いられた指標は、直線型リスクおよび循環型機会と関係付けることができます。企業はこれらの関係付けを通じて、どのような種類のリスクと機会が関連を持つのかを手始めに知ることが可能です（表3を参照してください）。

表3：リスクと機会の例（重複する場合があります。リストは網羅的ではありません。）

リスクの種類	市場	オペレーショナル	ビジネス	法令
<b>定義</b>	事業資産と負債に影響を与える市場および取引関連の要因が関与する	企業の社内業務に影響を与える要因が関与する	企業の戦略的事業目標に影響を与える新興の社会的、経済的、政治的トレンドがもたらす	現在および将来の規制、基準およびプロトコルに起因
	<b>機</b> <b>会</b>  <b>技術的:</b> 非バージン資源のコスト優位性 <b>生物的:</b> 認証バイオベース資源の価格プレミアム	新しいパートナーシップ <b>技術的:</b> バリューチェーンにおける引き取りおよび資源循環制度の開始 <b>生物的:</b> バリューチェーン内の食品廃棄物削減の取り組み	デイスラプティブな(破壊的な)新技術 <b>技術的:</b> 逆物流のためのトラッキングとトレース <b>生物的:</b> サプライチェーンの透明性を実現するための技術強化	<b>技術的:</b> 素材の二次利用に対する補助金 <b>生物的:</b> 再生可能材料(認証資源)に対する補助金
<b>% サーキュラー インフロー</b>	資源価格の変動性 <b>技術的:</b> 特殊な機能を持つ特定無機材料(すなわち重要鉱物)の希少性	サプライチェーンの機能不全	消費者の要求の変化 <b>技術的:</b> 中古品の需要増大 <b>生物的:</b> 植物性食品の需要増大	罰金または訴訟 <b>技術的:</b> リサイクル材含有率最低基準を要求するエコデザイン指令 <b>生物的:</b> バイオベース素材に関する新たな規制と政策
<b>リ ス ク</b>	<b>生物的:</b> 再生可能資源の希少性 - すなわち食用穀物と再生可能エネルギー用穀物の間での土地利用競争			

% サークュラー アウトフロー	機会	<p>技術的:二次資源としての廃棄物資源循環化</p> <p>生物的:バイオ栄養素抽出を目的とする廃棄物資源循環化</p>	人材の惹きつけおよび保持	<p>技術的:製品のサービス化や販売・買い戻しなどの新しいビジネスモデル</p> <p>生物的:高度な資源循環化と価値ある食品のロス防止</p>	<p>循環型ソリューションの政府刺激策</p> <p>技術的:ビジネスモデル・イノベーションを対象とした補助金と奨励策</p> <p>生物的:生分解可能なフローの高度な資源循環化を対象とした補助金と奨励策</p>
	リスク	<p>(資源と廃棄物に関する)禁輸</p> <p>技術的:すなわち、エレクトロニクス製品の越境に関するバーゼル条約</p> <p>生物的:食用および非食用廃棄物ストリームの処理の区別</p>	社内プロセスの機能不全	<p>変化する顧客需要</p> <p>技術的:修理する権利を求める動き</p> <p>生物的:食品廃棄物解消に向けた消費者主体の運動</p>	<p>拡大する生産者責任</p> <p>技術的:オープンループの資源循環およびリサイクル制度への貢献の義務付け</p> <p>生物的:食品ロス防止のための新たな規制または政策</p>
%水の サーキュ ラリティ	機会	公式な水市場を持つ州における水売買権	一定の流量および水圧を持つ水インフローの信頼性	競合他社に対する優位性	実証可能な、持続可能な管理による確実性の高い水利権の可能性
	リスク	廉価な水への依存(希少性が高まった場合、価格が上昇するおそれ)	水不足による業務の混乱と予期せぬ緩和コスト	<p>現地の評判と社会的操業ライセンスの喪失</p> <p>現地の運動</p>	水の枯渇に伴う近い将来の規制強化
%再生可能 エネルギー	機会	豊富な再生可能資源	新しいパートナーシップ	再生可能エネルギーのコスト削減	再生可能エネルギー補助金
	リスク	資源不足	従業員の安全問題	化石エネルギー価格の上昇	より厳格な法律
%クリティカル マテリアル	機会	ループ化	雇用創出	ディスラプティブな(破壊的な)新技術	(新しい)政府方針
	リスク	投資家の関心低下	従業員の安全問題	消費者の要求の変化	調達規則と規制
CTI収益指標	機会	ポートフォリオからのよりレジリエントで安定したキャッシュフロー	会社全体で社内の競争が活発化	ブランドエクイティと評判上のメリット	報告と開示の準備
	リスク	投資家の質問に対応するための知見の欠如	ポートフォリオ改善の失敗による、回避できなかったのレイオフ	無為に起因する競争上の不利	直線性の高い製品に対する将来的な規制

## リニアリスク評価

特定されたリスクを評価し、行動に優先順位を付けることをお勧めします。リスク評価は、御社のニーズとリソース次第で、お望み通りにシンプルにも（社内専門家との半日のワークショップで各段階を説明するもの）または精緻にも（詳細なデータを使って数日から数週間かけて徹底した分析を行うもの）することができます。いずれにせよ、以下の手順を踏むことをお勧めします。



### 1. シナリオ計画

サーキュラーエコノミーへの無限の移行シナリオは全て異なるリスクと機会をもたらします。さまざまなシナリオを調査および予測することで、企業は将来の進展をビジネスケースの評価に含めることができますようになります。次のシナリオを取り入れます。

- 現状維持 (BAU)
- 国家レベルまたは国際レベルで設定されるターゲットに沿う
- 世界動向の複合

これらのシナリオ分析内で、企業はこうしたリニアリスクが事業に及ぼす影響を評価するために使用する指標を決定することができます。それらは、金銭的、定量的または定性的指標です。提案：

- コスト
- 収益 (CTI収益指標を含む)
- 利益
- 顧客関係
- 従業員関係
- サプライチェーン連携

シナリオ分析だけでなく、専門家の意見、予測と評価、さらにその他の環境・社会・ガバナンス (ESG) に特化したツールを含め、有益と思われるツールが他にもあります。[COSOエンタープライズ・リスク・マネジメント \(ERM\)](#) フレームワークが、これら全てのツールについて詳しく説明しています。<sup>14</sup>

例：国レベルまたは国際レベルの目標シナリオ  
さまざまな国および欧州委員会のような国際機関がサーキュラーエコノミー採用のための目的および目標を設定しています。政策パッケージは長期にわたる（潜在的な）政策を説明しています。そうした政策が4つのリスクカテゴリーにどのように影響するのか、また企業レベルで形成されるターゲットにどのように関連しているかを説明することには関連性があります。

### 政策

サーキュラーエコノミー推進政策の概要については、[フアクトー10の政策ワークストリーム](#)を参照してください。



## 2. 脅威と脆弱性評価

収集した情報を意思決定に使用するとき、リスクのランク付けと優先順位付けを行います。リスク優先順位付けでよく見られる基準は、悪影響やその可能性の重大度です。しかし、こうした要因のみに依存することで、優先順位付けの精度を限られたものにする場合があります。そのため、COSO ERMフレームワークで定義されている以下の2つのより精緻な基準を使用されることを提案します。

- 脅威(固有リスク)インパクト(結果)および開始の速度またはスピード(リスクが事業体に影響を及ぼすスピード)が脅威の大きさを決定します。
- 脆弱性(残余リスク)適応性および回復力との関係で定義される。脆弱性の大きさは適応性(事業体がリスクに適応および対応する能力)および回復力(事業体が許容内に回帰する能力)に左右されます。

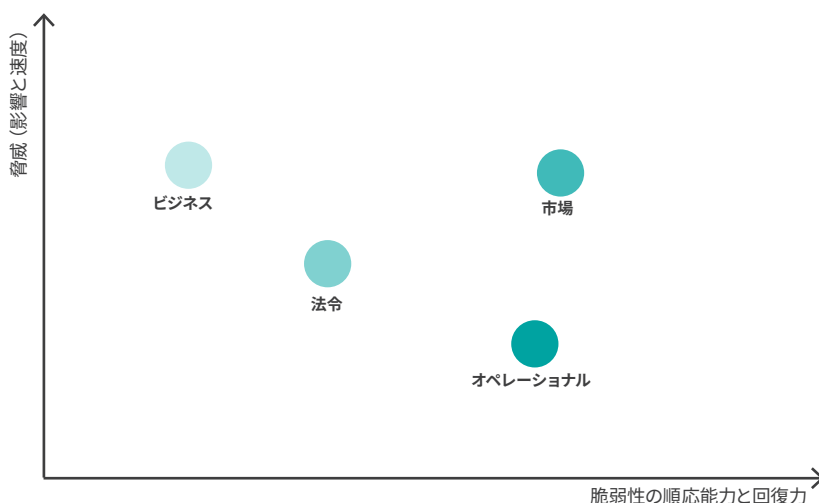
## 3. 優先順位付けの視覚化

最後のステップとして、企業は上述したリスク要因を一つの概要図に可視化でき、最終的な優先順位付けができます。図15は、ある架空の企業のリニア(直線型)リスクの脅威(Y軸)と脆弱性(X軸)を対比させたものです。

グラフにはデモ目的のため、主なリスクカテゴリーのみを示しています。しかし、これはより具体的にすることもでき、資源不足や変化する顧客需要など、全てのリニアリスクサブカテゴリを含めることもできます。

この可視化により、どのリスクに最初に対処するか優先順位を付けることができます。この優先順位付けに基づいて、また分析段階で得られた知見と併せて、企業は導入と次のステップに関する計画を立てることができます。

図15: リスクをプロットする



### COSO

トレッドウェイ委員会支援組織委員会(COSO)は、5つの民間機関が結集する共同イニシアチブです。これはエンタープライズ・リスク・マネジメント、内部統制、不正抑止に関するフレームワークとガイダンスの進展を通じて、ソートリーダーシップを提供することを専門的にしています。

出所: [www.coso.org](http://www.coso.org)

## 結果をリニアリスクとサーキュラー機会に結び付ける

これまでのステップにおいて、企業は以下を特定しています。

1. 改善の可能性があるマテリアルフロー
2. リニアリスクとサーキュラー機会

次に優先順位の高いリスクと機会に取り組む循環型ソリューションを評価します。

この枠組みで認識されているサーキュラーソリューションには、以下が挙げられます。

### インフローの場合

- 現在のリニアインフローを非バージン代替品に替える
- 現在のリニアインフローを再生可能な代替品に替える
- (例えば、持続可能な方法で管理されたバイオベース資源の認証を通じて) 再生不能なバイオベース資源を再生可能な資源に切り替える
- 製品の軽量化により資源利用を削減する
- 利用の最適化、デジタル化、(一部の部門では「サービス化」と呼ばれる) モノとしての製品のサービスへの切替え、耐久性強化などにより資源利用を削減する
- 栄養摂取の最適化(すなわち、食品廃棄物を作らない、栄養素／タンパク質を、資源を大量に消費しない代替材料に切り替える) を通じて資源利用を削減する

### 資源循環可能性の場合

- 特にモジュール設計、分解可能な設計、単一素材の使用による高度なリサイクル可能性(技術的サイクル)、ならびに(または)生分解性および非毒性(生物的サイクル)を取り入れるために再設計を行う

### 実際の資源循環の場合

- 製品をサービスとして販売したり、従量制を設けたりすることによって実際の資源循環を増やす(技術的サイクル)
- 買い戻し／引き取り制度により実際の回収を増やす(技術的サイクル)
- バリューチェーン内の連携と、収集・資源循環プログラムのためのパートナーシップを通じて実際の資源循環を増やす
- (食品廃棄物の防止または高度な資源循環化により) 実際に消費される生分解可能なアウトフローを増やす(生物的サイクル)

例：バージンインフローを二次インフローまたは再生可能インフローに置き換える

バージンインフローを二次インフローまたは再生可能インフローにより置き換えることでリニアインフローの質量を削減します。製品価格に変化がない場合、指標のパフォーマンスは改善します。

例：製品の軽量化

製品の軽量化は製品価格には影響を及ぼさないため、企業収益にも影響を与えません。製品から取り除かれる素材が(部分的に)リニアインフローで構成されている場合には、リニアインフローが減少します。これは結果としてサーキュラー型資源生産性を上昇させます。

例：ハードウェアからソフトウェアへのデジタル化

ソフトウェアをハードウェアに追加して提供すれば、絶対収益が増大します。ソフトウェアはハードウェアに追加の機能性を提供することができるか、またはハードウェアの一部または全部に取って代わることができません。これが(一部)リニアインフローに由来するものである場合、リニアインフローは減少します。これは結果として、より高いサーキュラー型資源の生産性になります。

## 水のサーキュラリティの場合

- 直線型水資源を、第三者の水や(可能であれば)その施設自体のプロセスで生じた再使用廃水などの循環型水資源に切り替える
- 現地流域への放出前に、地域の水質規制基準に準じて(オンサイトまたは廃水処理施設での)廃水処理を増やす
- (製品の輸送、蒸発または海への放出による)現地流域からの水の移動を最小化するための代替策を探す

## CTI収益指標の場合

- 「インフロー」、「資源循環可能性」および「実際の資源循環」を強調したソリューションの実施により、製品ポートフォリオのサーキュラリティを高める
- (循環性の低い製品に対し)循環性の高い製品の売上を伸ばす

このリストは網羅的ではなく、時間の経過とともに成長していくものですが、考慮すべき可能なソリューションを検討するのに格好の出発点です。本ページおよび次のページの例では、こうしたソリューションを紹介します。

### 例：従量制モデルへの移行

製品販売モデルから従量制モデルへの移行では、サーキュラー型資源生産性が高まります。このビジネスモデルでは、製品の循環とサービスとしての支払いが可能になるためです(その結果、生じる収益に対してリニアインフローが相対的に減少します)。

### 例：耐久性の高い製品の販売

より高い品質で製作された製品はより長持ちすると仮定すると、製品当たりの価格は増大します。リニアマテリアルの使用量が同等であるならば、リニアマテリアルの使用との関係において相対的に収益は良くなります。



## 循環型機会：ビジネスケースの評価

プロセスのこの段階では、企業は以下について一層はっきりとした考えを持ちます。

- 企業が行動を起こすのを支援できるサーキュラーソリューション
- それらを適用して優先順位が付けられたリスクと機会
- 改善の可能性のあるマテリアルフロー

潜在的なオプションを選択することで、あるいは予想されたビジネスの成果を検証することで、ビジネスケースの評価は役立てることが出来ます。WBCSDがサーキュラーエコノミー報告書<sup>15</sup>で示した8つのビジネスケースでは、循環型の事業遂行を通じて成長を加速させ、競争力を高め、リスクを緩和させることができるという点が強調されています。サーキュラー機会を手にするためには、ビジネスケースを実証する必要があります。

原則として、循環型ビジネスケースは他のビジネスケースと同じですが、従来通りの方針を採用した場合には、循環型ビジネスケースが持ついくつかの特徴がないがしろにされるおそれがあります。そのため、サーキュラリティのビジネスケースの評価時に検討すべき関連事項を以下にいくつか列挙しています。

### 他のビジネスケースと同じように評価する

最初のステップはその他のビジネスケースと同じように評価することです。すでに明らかなケースがある場合、サーキュラーな付加価値を実証する必要がない場合があります。

### 循環型ビジネスケースにおける潜在的なコスト節約を検討します

- 直線型の（バージンかつ再生不能な）インフローを循環型の（再生可能または非バージンの）インフローに置き換えることが節約につながる可能性があります。  
「コスト節約 = 100%リニアインフローのコスト - 現在のインフローのコスト」  
「コスト節約の可能性 = 現在のインフローのコスト - 100%サーキュラーインフローのコスト」
- 節約はより良いクライアントの保持と獲得に関連していることがあります（「グリーン」のイメージ）またはサービスとしての製品や買い戻し／引き取り契約による長期的な関係育成による）。これによりマーケティングコストを削減できます。
- 節約は有能な従業員のより優れた保持と雇用に関係することがあります（循環型ビジネスの「目的」により促される）。
- ロスの回避（例えば、生物的サイクルの場合は食品廃棄物に関連する栄養素のロス、技術的サイクルの場合は残ったストリームの再使用など）が節約につながる可能性があります。

### 収益増大要因を特定する

- サーキュラリティ、利便性および持続可能性（またはそのいずれか）に惹きつけられる新規顧客
- 顧客によるサービスへの初期投資が製品への初期投資より小さいこと（従量性モデル）による新たなセグメント
- 廃棄物ストリームと製品（副産物）の高度な資源循環化に関連する新たな収益



## 投資家の関心の高まりを予想し、これに応える

投資家はサーキュラーエコノミーの機会をますます意識するようになりました。企業はサーキュラーエコノミーへのコミットメントに関して投資家と積極的にコミュニケーションを取り、投資家から問い合わせがあったときには実績を示せるように準備しておくべきです。

## 長期的展望を考える

サービスとしての製品または下取りオファーはより長期のサービス契約または買い戻し／引き取りのオファーに基づいています。これらのビジネスモデルを採用することで、長期的な利益を安定させ、将来のキャッシュフローの予測可能性を改善することができます。

- 製品の所有権を維持することで、またはアクセスを取得することで、企業は将来の供給を確保し、将来の資源インフローの価格ボラティリティへの対応策を採ることになります。

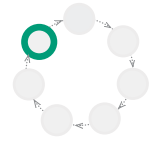
社会のサーキュラーエコノミーへの移行はコスト節約、利益性、法的要件における今後の変化を生み出すことになるかもしれません（シナリオ計画に関するセクションも参照してください）。

## 健全性テスト：サーキュラーエコノミーを持続可能な開発実現の手段にするために

サーキュラーエコノミーが大規模に拡大した場合に外部の第三者に悪影響が及ぶことを防ぐために、企業が循環型最終目標を追求するにあたって視野狭窄に陥らないようにすること、より幅広い持続可能な影響を考慮することが重要です。環境的、社会的ライフサイクル評価（LCAs）その他のツールで環境サーキュラーパフォーマンス評価を補完することにより全体像を捉えます。LCAsその他の製品関連指標が、異なる製品間でサーキュラリティを評価したり比較したりするための重要なツールであることに変わりはありません。必ず全ての中間的なステップを考慮に入れ、最も適切なソリューションを特定するために、現地の状況を検討しながらこれらを実施します。これは、起こりうるトレードオフを企業が認識できるようにするためです。トレードオフは、さまざまな環境的、社会的影響と依存関係について循環型戦略を分析する際に表出することがあります。



# ⑦ 適用 計画と行動



結果を分析し、リスクと機会に優先順位を付け、循環型ソリューションを評価し、ビジネスケースを定義した後の次のステップは、改善のためのターゲットを設け、関連する行動を実行に移すことです。

## ターゲットを設ける

分析に基づき、改善可能な機会が明らかになります。さらに、優先順位付け段階で対処すべきリスクと機会が特定されます。この両方を結び付けることで、この情報はSMARTターゲットを設けるための関連性のある証拠を提供します。

## 行動を本格展開する

ターゲットを達成するためには行動を起こす必要があります。ターゲットごとの具体的な行動をさらに定義するのは企業次第ですが、以下に検討すべき要素のガイダンスをいくつか挙げます。

### 何を実行する必要があるかを定義する

ターゲットは実行する必要があるものに関する方向性を与えます。分析の項でも説明しましたが、考えられる方向性の例を下の表の最初の段でおおまかに示しました。企業の性質および分析結果に基づき、どのように具体的な行動を形成するかは企業次第です。

### いつ実行する必要があるかを定義する

企業はバックキャストिंगを使って行動計画を立てるべきです。時間的制約のあるターゲットを念頭に、企業はロードマップに基づいた中期ターゲットと行動を展開することができます。中期ターゲットのある評価サイクルの整合性を確保するため、ロードマップ内のタイムラインを定義することが重要です。

### 行動を起こす必要がある者を定義する

行動を徹底するには、行動推進責任者を特定する必要があります。以下の表には関係する社内部署、検討すべき社外関係者、行動実行の際に考慮すべき検討事項を添えた、分析段階からの可能な行動がリストされています。

## 形成されたターゲットに対する行動と進捗状況进行评估する

この段階はサーキュラー・トランジション・インデックスのフレームワークの最終段階ではないことを踏まえておくことが重要です。図16が示すように、プロセスのステップはサイクルの中で互いにつながり合っています。この段階は、次の評価を開始し、適用段階で実行されたアクションに起因する、目標達成に向けた改善を監視するためのスコoping段階へと読み込まれます。

下の表4は、上述の循環型ソリューションのいくつかを計画し、本格展開する際に考慮すべき要素に関して、さらにいくつかの知見を示します。

## SMART原則に基づく目標設定

**Specific (具体的) :** 一回に指標の一つの要素のみに焦点を当てる (% 非バージョンインフローと % 再生可能インフローについて別々の目標を設ける)。

**Measurable (測定可能) :** フレームワークの中で捉えた数値目標に焦点を当てる。

**Ambitious (野心的だが達成可能) :** 計画段階で評価された可制御性に基づき、概ね社内的重要因素に依存する目標に焦点を当て、確実な達成を図る。

**Relevant (関連性がある) :** 分析に基づき、最も関連のある分野に関する目標に焦点を当てる (すなわち最大のフローや最も重要な素材)。

**Time-bound (期限を定める) :** 目標達成の期限を定め、期限内に沿った評価サイクルを計画する。

図16: プロセスサイクル

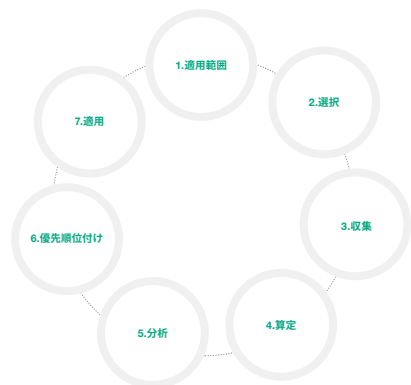


表4：循環型ソリューションの計画と本格展開にあたって考慮すべき要素

関与する部署	考慮すべき その他の当事者	実行時の考慮事項	ターゲット例	アクションの例
<b>再生可能インフローに取り替えることにより、リニアインフローを削減する</b>				
持続可能性 調達 製品設計 プロダクトマネジメント R&D	サプライヤー 認証機関	サプライヤー	2023年までに天然素材を使った新ファッションラインを立ち上げる	認証が持続可能性と土地利用をどの程度考慮しているのかを探り、目的に照らして認証素材の機能性を調査する
<b>二次インフローに取り替えることにより、リニアインフローを削減する</b>				
持続可能性 調達 製品設計 プロダクトマネジメント R&D	サプライヤー	持続可能性 技術的実現可能性 消費者による受容 取引先機能性	2025年までに製品カテゴリXの再生可能原料含有率を40%以上にする	技術的実現可能性と可用性をサプライヤーと話し合う 必要に応じてサプライヤーを切り替える
持続可能性 製品設計 プロダクトマネジメント R&D	取引先	取引先機能性 顧客による受入	2025年までに製品カテゴリXのライフタイム使用を2倍にする	設計部門と技術的な実現可能性を話し合う 消費者の製品利用を阻む障害を調査する(すなわち技術的制約、ファッション、ステータスなど)
<b>(モジュール性、分解、モノマテリアルの生分解性に関して) 製品設計を最適化することにより資源循環可能性を高める</b>				
持続可能性 製品設計 保守・サービス プロダクトマネジメント R&D	取引先 サプライヤー	技術的実現可能性 採算性	2022年までに製造されるボトルの60%が単一素材からなる 2025年までにパッケージの最適化により食品廃棄物を20%削減する	サプライヤーを変更する サプライヤーと調査を設ける
持続可能性 製品設計 R&D	取引先 サプライヤー	技術的実現可能性 採算性	「ハイブリッド型製品」の技術的素材を全て生分解可能な素材に切り替える	(OECDに準じた)生分解性の代替素材の通覧をサプライヤーに要求する
<b>所有権を維持することにより、または買い戻しまたは引き取り制度により実際の資源循環を増大する</b>				
持続可能性 製品設計 営業 アカウント管理 カスタマーリレーションズ 保守・サービス 法務 プロダクトマネジメント	取引先 投資家	財務上の意味合い。例えばバランスシートおよびキャッシュフロー上 法的意味合い	2025年までに、高価値資産による収益の30%を従量性モデルで得るようにする	返却ロジスティクスについてサプライヤーを指導する 新しいモデルに対する取引先のニーズと障害を理解するための市場調査

**バリューチェーンの第三者との間に引き取り／買い戻しまたは資源循環制度を設けることにより、実際の資源循環を増やす**

持続可能性 製品設計 営業 アカウント管理 カスタマーリレーションズ プロダクト マネジメント R&D	取引先 サプライヤー	その他の関係者との協 力形態	2023年までに、新規に販売し た全電話機を対象とする引き 取り制度または買い戻し制度 を設ける	リファービッシュ業者と契約 を結ぶ
--	---------------	-------------------	---	----------------------

持続可能性 アカウント管理 カスタマーリレーションズ マーケティング	取引先	他社との連携	消費により高度な資源循環化 を図るため、賞味期限切れ間 近の食品を割引価格で販売す る制度を小売業者との間で設 ける	こうした制度についてパート ナーとの連携を検討する
---	-----	--------	--	------------------------------

**公の制度に投資し、擁護することで実際の資源循環を増大する**

持続可能性 パブリックリレーションズ	顧客 国家機関	実現可能な影響と効果	2025年までにカーボンオフ セット市場の95%において公 共制度支援運動をサポートす る	支援運動に同業者とともに 参加する
-----------------------	------------	------------	--	----------------------

**公の制度に投資し、擁護することで実際の資源循環を増大する**

ユーティリティ／ エンジニアリング、 調達、 製品品質、 製造、 施設管理、 広報、 ガバメントリレーションズ	流域内の現地 ステークホル ダーコミュニ ティ 市町村の廃水 処理サービス プロバイダー 大学／ 研究機関 市民社会団体 規制当局	顧客による受容(風味、 安全性) 流域の水収支 規制当局の許可遵守		
--	---	--	--	--



# CTI用語集

## %サーキュラリティ

ある製品（グループもしくはポートフォリオ）、事業部門または会社全体の%サーキュラーインフローと%サーキュラーアウトフローの加重平均

## 生分解可能なアウトフロー

微生物による分解が可能であり、例えば堆肥化や嫌気性消化を介して生態系によるさらなる使用が可能な有機分子にまで生分解する素材または物質のアウトフロー<sup>16</sup>。ある製品を生分解可能とみなすことができるのは、その製品に含まれる毒素または危険物質が、認められた基準（例えば、Cradle to Cradle Certified Productsプログラムの制限物質リスト（RSL）DRAFT v4）の範囲内である場合のみ。企業は、特にOECD、国際標準化機構（ISO）、オランダ規格協会（NEN）などの生分解性および堆肥化可能性に関する既存の試験基準を参照することができる。

## 副産物

マテリアルプロセスにおける意図されていない、不可避で追加的なモノの流れであって、意図された主製品でないもの。

## コプロセッシング

単一の工業プロセスにおいて、残留廃棄物を鉱物資源の原料（マテリアルリサイクル）、および化石燃料を代替するエネルギー源として同時に使用すること。コプロセッシングでは、廃棄物の鉱物部分が原材料（石灰石、粘土または鉄など）の代わりになり、可燃性の部分が工業プロセス（例えば、セメント生産）に必要なエネルギーを提供する。

## サーキュラーエコノミーの原則

- 廃棄物と汚染を排出しない設計
- 製品と素材を使用し続ける
- 自然のシステムを再生成する

## サーキュラーインフロー

以下のようなインフローのこと。

- 再生可能インフロー（定義を参照）で、再生可能性の自然サイクルに則った速度で使用される。

または

- 非バージョン

## サーキュラーアウトフロー

以下のようなアウトフローのこと。

- 製品と素材に完全な資源循環可能性があり、技術的なライフタイム終了後の経済的ライフタイムを拡大する形で設計および加工される

かつ

- 実証できる形で回収される

## サーキュラーパフォーマンス

%サーキュラリティ（%サーキュラーインフローおよび%サーキュラーアウトフロー）、ならびに他のCTI指標一つ以上を含む、製品（グループ）、事業部門の多次元的结果。この指標は3つのモジュールのどこから取ってもよい。

## CTI収益指標

製品（グループもしくはポートフォリオ）、事業部門または会社全体で生じた収益にそれぞれの%サーキュラリティを乗じたもの。

## 企業の境界

組織の物理的境界または経営上の境界。財務報告および持続可能報告と同じ範囲を持つ。

## ダウンサイクル

「結果的に生じた製品の（経済的）価値が元の製品より低くなるような方法で何かを」リサイクルすること。<sup>17</sup>これは、その素材／製品の特性（機能的等価性）が失われ、前のサイクルと同じような機能で使用できないことを意味する。一般にダウンサイクルは、経済的価値の喪失につながる製品の材料特性、劣化のレベル、または（金属の場合）純度低下の有無を表す際に使われる。<sup>18</sup>

## 機能等価性

機能が「等価（または同等）である状態または属性」。<sup>19</sup>

CTIの文脈では、機能等価性は前回のサイクルと同じような機能を保ちながら、（マテリアル、製品部品などとして）インフローに戻すことが技術的に可能で採算が取れるように設計されたアウトフロー（製品、製品部品など）を特徴づける。例えば、携帯電話に使用されていたプラスチックを台所用品用にリサイクルできる。これは強度や美観などの特性が同等だからである。

## インフロー

素材、部品または製品など、企業に入ってくる資源（企業のサプライチェーン内におけるポジションによる）。水とエネルギー（担体）は含まれない。これらは水とエネルギーに関する特定の指標の一部である。

## リニアインフロー

バージン、再生不能資源。

## リニアアウトフロー

サーキュラーとして分類できないアウトフロー。このことはアウトフローが以下の通りであることを意味する。

- 設計においてサーキュラーでなく、資源循環不可能な形で加工される素材から構成される

または

- 実証できる形で資源循環されず、または経済に還元されない

## リニアリスク

直線型の事業遂行方式(希少な再生不能資源を使用する、新製品の販売を優先する、連携を行わない、イノベーションや適応を行わない)がもたらす影響へのリスクエクスポージャー。その企業の操業のための許可に悪影響を及ぼす。<sup>20</sup>

## 非バージンインフロー

一度使用された(二次)インフロー。例えば、リサイクル原料、中古品またはリファービッシュ部品など。

## アウトフロー

マテリアル、部品、製品、副産物、廃棄物などの企業から出ていくマテリアルフロー(企業のサプライチェーン内におけるポジションによる)。

## 資源循環

再使用、修理、リファービッシュ、転用、再製造、リサイクルまたは生分解による、機能的に同等な栄養素、化合物、素材、部品、コンポーネント、さらに場合によっては製品(組織によって異なる)の技術的に可能で採算の取れる資源循環。

廃棄物からのエネルギー資源循環、および38ページの基準を全て満たしていない生物的サイクル廃棄物はこれに含まれない。

## 資源循環タイプ

さまざまな形態のマテリアル回収。例えば、次のような形態がある(エレン・マッカーサー財団のサーキュラーエコノミー体系図またはバタフライダイアグラム<sup>21</sup>の再循環ループと同じ順序で挙げる)。

## リユース(再使用)

製品またはその機能性に変更を加えることなく、設計で意図された寿命を超えて製品寿命を延ばすこと。

## 修理

製品またはその機能性に変更を加えることなく、破損または摩耗した製品を修復することによって製品寿命を延ばすこと。

## リファービッシュ

製品またはその機能性に変更を加えることなく、部品交換を伴う大掛かりな修理により製品寿命を延ばすこと。

## 再製造

製品をコンポーネントレベルに分解し、(必要に応じてコンポーネントを交換して)新品同様の状態に組み立て直すこと。製品の機能性に変更される可能性がある。

## リサイクル

製品を素材レベルまでにし、これらの素材を新しい製品に使用できるようにすること。

## 生分解

酸素が存在する環境での微生物(バクテリアおよび菌)による有機物分解により、有機物(腐植質)を多く含む土壌を作り出すこと。

## 再生可能性

生産性その他の利点を確保するため、重要な資源を還元し、生態系の健康を改善する能力を持つこと(炭素捕捉、生物多様性、その他の生態系サービスなど)。本来の状態よりすでに劣化していた自然等の再生の場合は、自然のシステムの現状維持を超えて本来の状態まで再生するという意味であることに留意する。<sup>22</sup>

## 再生可能なインフロー

持続可能な形で管理された資源(多くの場合、森林管理協議会(FSC)、森林認証プログラム(PEFC)、持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)など<sup>23</sup>の国際的に認められた認証制度によって明示されている)で、採取後、使用サイクルと同じ速さで、自然の成長または補充プロセスにより以前の資源水準に戻るもの。つまり、これらの資源は収穫/採取より速い速度で補充/再生される。<sup>24</sup>

## バージンインフロー

以前に使用または消費されていない(一次)インフロー。

# 参考資料

- <sup>1</sup> Circle Economyの2020年サーキュラリティ・ギャップ・レポートに基づく。同レポートには、現在の世界経済の循環率は8.6%にとどまると記されている。詳しくは <https://www.circularity-gap.world/2020> を参照。
- <sup>2</sup> Circle Economy (2020年)。2020年サーキュラリティ・ギャップ・レポート。  
<https://www.circularity-gap.world/2020> より
- <sup>3</sup> WWF Living Planet Report 2012に基づく。  
[https://wwfint.awsassets.panda.org/downloads/lpr\\_living\\_planet\\_report\\_2012.pdf](https://wwfint.awsassets.panda.org/downloads/lpr_living_planet_report_2012.pdf) より
- <sup>4</sup> WBCSD (2018)。Circular Metrics – Landscape Analysis (循環指標背景分析)。持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD)。  
<https://www.wbcsd.org/Programs/Circular-Economy/Factor-10/Metrics-Measurement/Resources/Landscape-analysis> より
- <sup>5</sup> エレン・マッカーサー財団 (2020年)。マテリアル・サーキュラリティ・インデックス。  
<https://www.ellenmacarthurfoundation.org/resources/apply/material-circularity-indicator> より
- <sup>6</sup> Circle Economy (2020年)。2020年サーキュラリティ・ギャップ・レポート。  
<https://www.circularity-gap.world/2020> より
- <sup>7</sup> 詳しくはCircularIQ General Terms of Service (<https://s3.eu-central-1.amazonaws.com/ctitool.com/2020-01-20+GTC-TLF.pdf>) を参照
- <sup>8</sup> 欧州委員会 (日付不明)。「Critical raw materials (重要な原材料)」。[ec.europa.eu/growth/sectors/raw-materials/specific-interest/critical\\_en](http://ec.europa.eu/growth/sectors/raw-materials/specific-interest/critical_en) より
- <sup>9</sup> IRENA 国際再生可能エネルギー機関 ([www.irena.org/](http://www.irena.org/)) を参照
- <sup>10</sup> 欧州委員会 (日付不明)。「Critical raw materials (重要な原材料)」。  
[ec.europa.eu/growth/sectors/raw-materials/specific-interest/critical\\_en](http://ec.europa.eu/growth/sectors/raw-materials/specific-interest/critical_en) より
- <sup>11</sup> アメリカ地質調査所 (USGS) (2018)。「Interior Releases 2018's Final List of 35 Minerals Deemed Critical to U.S. National Security and the Economy」。  
[www.usgs.gov/news/interior-releases-2018-s-final-list-35-minerals-deemed-critical-us-national-security-and](http://www.usgs.gov/news/interior-releases-2018-s-final-list-35-minerals-deemed-critical-us-national-security-and) より
- <sup>12</sup> Circle Economyの2018年サーキュラリティ・ギャップ・レポート ([www.circularity-gap.world/](http://www.circularity-gap.world/)) を参照
- <sup>13</sup> WBCSD (2018)。リニアリスク。  
<https://www.wbcsd.org/Programs/Circular-Economy/Factor-10/Resources/Linear-Risks> より
- <sup>14</sup> トレッドウェイ委員会支援組織委員会 (COSO) とWBCSD (2018)。「Enterprise Risk Management: Applying enterprise risk management to environmental, social and governance-related risks」。  
[www.coso.org/Documents/COSO-WBCSD-Release-New-Draft-Guidance-Online-viewing.pdf](http://www.coso.org/Documents/COSO-WBCSD-Release-New-Draft-Guidance-Online-viewing.pdf) より
- <sup>15</sup> WBCSD (2017)。サーキュラーエコノミーの8つのビジネスケース。  
<https://www.wbcsd.org/Programs/Circular-Economy/Factor-10/Resources/8-Business-Cases-to-the-Circular-Economy> より
- <sup>16</sup> この定義はCradle to Cradle Products Innovation Institute (2016)の定義に基づく。ゆりかごからゆりかごへ認証 – 製品規格。  
[s3.amazonaws.com/c2c-website/resources/certification/standard/STD\\_C2CCertified\\_ProductStandard\\_V3.1\\_060518.pdf](http://s3.amazonaws.com/c2c-website/resources/certification/standard/STD_C2CCertified_ProductStandard_V3.1_060518.pdf) より

<sup>17</sup> Merriam-Websterの定義  
(<https://www.merriam-webster.com/dictionary/downcycle>)

<sup>18</sup> Campbell, K., Johnston, W., Vermeulen, J.V., Reike, D., Brullot, S. (2020年)。The Circular Economy and Cascading: Towards a framework。Resources, Conservation & Recycling: X, vol. 7, September 2020, 100038。

<sup>19</sup> Merriam-Websterの定義  
(<https://www.merriam-webster.com/dictionary/equivalence>)

<sup>20</sup> サークルエコノミー、PGGM、KPMG、欧州復興開発銀行 (EBRD) およびWBCSD (2018)。リニアリスク。  
[docs.wbcsd.org/2018/06/linear\\_risk\\_report.pdf](https://docs.wbcsd.org/2018/06/linear_risk_report.pdf)より

<sup>21</sup> エレン・マッカーサー財団のサーキュラーエコノミーインフォグラフィック  
(<https://www.ellenmacarthurfoundation.org/circular-economy/concept/infographic>) を参照

<sup>22</sup> エレン・マッカーサー財団の定義を翻案  
(<https://www.ellenmacarthurfoundation.org/explore/the-circular-economy-in-detail>)

<sup>23</sup> 例えば森林管理協議会 (FSC) と持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO) の認証。

<sup>24</sup> 定義は経済協力開発機構 (OECD) の定義に基づく。  
[stats.oecd.org/glossary/detail.asp?ID=2290](https://stats.oecd.org/glossary/detail.asp?ID=2290)より



## 免責事項

この報告書はWBCSDの名前で作成されています。その他の報告書と同様、これはWBCSDの職員と加盟企業の専門家による共同作業の賜物といえます。FACTOR10サーキュラー・インデックスワークストリームの参加者が草案に目を通し、本文書がFACTOR10メンバーの過半数の意見を広義に代表したものになるよう徹底しています。しかしながら、そのことはWBCSDの加盟企業の全てが文言の逐一に同意することを意味するものではありません。本報告書で公開したデータは2020年11月現在のものですのでご注意ください。

## 謝辞

### WBCSDサーキュラーエコノミー

**Brendan Edgerton** | ディレクター、Circular Economy

Carolien van Brunschot | マネージャー、Circular Economy (プロジェクト共同責任者)

**Irene Martinetti** | マネージャー、Circular Economy (プロジェクト共同責任者)

WBCSDは以下の企業から貴重な知見とご協力を頂戴したことに感謝いたします。

### サーキュラー・インデックス・プロジェクト議長

#### Royal DSM

Jeff Turner; Roy Vissers; Kimberley Chan

### サーキュラー・インデックス・フレームワーク策定パートナー

#### KPMG

Arnoud Walrecht  
Suzanne Kuiper (共同著作者)

### CTIソフトウェア開発パートナー

#### Circular IQ

Roy Vercoulen  
Niels van der Linden

### サーキュラー・インデックス・ワーキンググループメンバー

Michele Del Grosso, Aptar; Talke Shaffranek BASF; Karl Downey, CRH; Michel Manuel, Lisa-Marie Rehmann, Magnus Schulz, Michael Schnell, Daimler AG; Eunice Heath, Rich Helling, Oonagh McArdle, Nicoletta Piccolrovazzi, Dow Chemical Company; Kimberley Chan, Roy Vissers Royal DSM; Scott Oram, Mike Allen, Joe Yalley-Ogunro, Paula Kasprzyk, Nick Mills, GlaxoSmithKline (GSK); Aysu Katun, Linea Olsson, Greif; Michael Herschkowitz, International Flavors & Fragrances, Inc.;

Suzanne Kuiper, Arnoud Walrecht, KPMG; Eva Carranza, Michael Scharpf, LafargeHolcim; Wendy Phippen Microsoft; Harald Tepper, Sophie Thornander, Royal Philips N.V.; Bas Ruter, Björn Aarts, Rabobank; Krisada Ruangchotevit, Poramate Chairat, Siam Cement Group Thailand; Zeren Browne, Security Matters; Alissa Cotton, Shell; Erica Ocampo, Sims Metal Management; Dominique Debecker, Isabelle Gubelmann-Bonneau, Solvay; Roy Antink, Collander, Kenneth, Riikka Paarma, Stora Enso; Catherine Chevauché, Jean-Pierre Maugendre, Suez; Amelie Rouvin, Veolia; Roberta Bernasconi, Whirlpool.

### サーキュラー・インデックス・アドバイザーメンバー

François Saunier, Manuel Margni, CIRAI; Jacco Verstraeten-Jochemsen, Circle Economy; Christina Raab, Stephanie Connolly, Cradle2Cradle Innovation Institute; Jarkko Havas, Ellen MacArthur Foundation; Anna Krotova, Global Reporting Initiative (GRI); Arthur Ten Wolde, MVO Nederland, Rikka Leppanen, Kari Herlevi, SITRA; David McGinty, Platform for Accelerating Circular Economy (PACE).

### サーキュラー・インデックス・バイオエコノミー・ワーキンググループ

Anisa Bear, Gabriela Burian, Priya Sudarsanam, Bayer; Alexander Meyer Zum Felde, BCG; Jesus Lopez, Erik McMillan, BP; Catherine Barth, Circular Norway; Agnes Martin, Merijn Dols, Danone; Ralf Kelle, Evonik; Christine Crosby, Markus Hurschler, Foodways; Thomas Mueller-Kirschbaum, Henkel; Catarina Englund, Ingka Group; Sophie Beckham, James McDonald, International Paper; Brigitte Campfens, KPMG; Simone Weinstein, Provision Coalition; Tom Oldfield, Olam, Outi Marin, Smurfitkappa, Shubhra Verma, student, Yale University;

### サーキュラー・インデックス・ウォーター・ワーキンググループ

Tom Williams, WBCSD, Nick Martin, BiER; Oliver Maennicke, Independent Consultant; Alistair Wyness, BP; Jader Loureiro Cravo, Heineken; France Guertin, Dow; Andre Fourie, AB InBev; Deniz Dogan, The Coca-Cola Company; Natalia Quisel, Veolia; Duncan Wall, Diageo; Beth Holland, Aptar

## サーキュラー・トランジション・インデックス CTI V2.0 日本語版作成メンバー

### PwC Japanグループ

坂野俊哉、磯貝友紀、山崎英幸、水上武彦、金井路也

## FACTOR10について

ビジネスの将来はサーキュラーにあり、そこでは廃棄の余地はありません。WBCSDのサーキュラーエコノミープログラムであるFactor10は、ビジネスのリーダーシップと慣行の中心に循環性を置くことを目的としています。私たちの目的は企業内および企業間に不可欠なエンゲージメントレベルを築くことで、持続可能な世界の構築に必要なソリューションを実現し、拡大するようサーキュラーエコノミーを推進することです。

廃棄物のかけらさえも存在しない「Vision 2050」に到達するには、素材のエコ効率を10倍に高めなければなりません。Factor10 Instituteは1994年に資源効率の10倍の改善を呼びかけた際、このターゲットに言及しました。Factor10の詳細については、<https://www.wbcسد.org/Programs/Energy-Circular-Economy/Factor-10>を参照してください。

## WBCSDについて

WBCSDは、持続可能な世界への移行の加速に向けて200社以上の有力企業が協力する、CEO主導のグローバルな会社です。私たちは株主、環境、社会に対して最大限のプラスの影響に重点を置くことで、加盟企業の一層の成功と持続可能性を支援します。

加盟企業はあらゆる業種と主要経済大国を網羅します。これらの企業の収益は総額8兆5,000億ドルを超え、従業員数は1900万人を数えます。およそ70の全国的ビジネス協議会からなるグローバルネットワークは、加盟企業に比類のないグローバルリーチを与えています。WBCSDはバリューチェーンに沿い、またバリューチェーンにまたがり加盟企業と協力する固有の立場にあり、最も困難な持続可能性問題に対して影響力のあるビジネスソリューションを提供します。

ともに、私たちは持続可能性に関する企業の主要な声となっています。私たちは2050年までに、地球の境界内にて90億超の人々全てが良い暮らしをするというビジョンにより結ばれています。

[LinkedIn](#)と[Twitter](#)でWBCSDをフォローしてください。

[www.wbcسد.org](http://www.wbcسد.org)

### 著作権

Copyright © WBCSD,  
2021年2月

持続可能な開発のための  
世界経済人会議

ジュネーブ、北京、デリー、ロンドン、ニューヨーク、シンガポール

[www.wbcsd.org](http://www.wbcsd.org)

